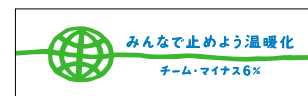




社会・環境報告書 2007

株式会社ダイフク

<http://www.daifuku.co.jp>



この環境報告書は、FSC認証紙を使用し、植物油100%の「大豆油インキ」を使い、ISO14001認証工場において「水なし印刷」で印刷しています。

発行:2007年8月(次回発行予定:2008年8月)  
0708-20SER

- 01 Top Message
- 04 企業データ
- 06 ハイライト
- 08 コーポレートガバナンス
- 09 全社統合マネジメントシステム

### 社会的取り組み

- 10 規制の順守
- 11 情報セキュリティ体制／人権および雇用
- 12 労働安全衛生
- 13 品質マネジメントシステム
- 14 コミュニケーション活動
- 15 社会貢献活動

### 環境方針・目標・実績

- 16 環境基本方針
- 17 環境目的・目標と実績
- 18 事業活動のマテリアルバランス
- 19 環境会計

### 環境マネジメント

- 20 環境マネジメントシステム

### 環境負荷低減の取り組み

- 22 省エネルギー・省資源化への取り組み
- 24 廃棄物の削減
- 26 環境汚染物質の排出抑制と管理
- 28 グリーン調達
  
- 29 総合展示場「日に新た館」

### Column

- 09 環境・安全衛生メッセージ
- 13 世界各地でISO認証を取得
- 15 機械式立体駐車場「サイクルハウス21」
- 16 環境意識の高揚
- 19 環境経営度調査
- 23 コージェネレーションシステム
- 24 汚泥の再資源化
- 27 騒音・振動対策

### 環境・安全活動担当者のコメント

- 12 滋賀事業所
- 21 大阪本社
- 22 東京本社
- 25 小牧事業所
- 28 滋賀事業所

#### ■編集方針

当社では、2002年から「環境報告書」を発行してまいりましたが、今回より社会面の内容を拡充させ、「社会・環境報告書」として作成いたしました。ユーザー・取引先・株主の皆さまに、当社が製造・販売を行う過程で、全従業員が社会貢献・環境保全に留意し活動している姿をご紹介します。当社では、今後も年1回の発行を継続してまいります。

なお、ホームページ (<http://www.daifuku.co.jp>) でも社会・環境活動に関する情報を発信しております。今後さらに、活動内容や報告書の質を高めていくため、皆さまからのご意見をお待ちしております。

#### ■本報告書の概要

対象期間：2006年4月～2007年3月

※活動内容については、一部上記以外の期間を含みます。

対象事業所：大阪本社、東京本社、  
滋賀事業所、小牧事業所、中部・東海地区(東海支店)  
(株)九州ダイフク、(株)コンテック

#### ■本報告書に関するご意見・お問い合わせ先

株式会社ダイフク  
本社部門 CSR部  
〒105-0014 東京都港区芝2-14-5  
TEL：03-3456-2245 FAX：03-3456-2262  
生産統轄 ISO推進グループ  
〒529-1692 滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225  
TEL：0748-52-4309 FAX：0748-52-2963  
E-mail：webmaster@daifuku.co.jp



# 創立70周年を 迎えて

代表取締役社長

竹内 克己

### マテリアルハンドリング分野で世界ナンバーワンへ

2007年5月20日、当社は過去最高の業績(2007年3月期決算)の中、創立70周年を迎えることができました。これもステークホルダーの皆さまの長年にわたるご指導・ご鞭撻の賜物と厚く御礼申し上げます。

当社は1937年、大阪で機械メーカーとして発足。1950年代に手掛けたチェンコンベヤが、自動車工場に欠かせぬ生産システムとして、折からのモータリゼーションの波に乗って急成長しました。1960年代には、自動倉庫や無人搬送車など一般製造業・流通業向けのシステムを次々に開発していきました。1980年代からは半導体製造用クリーンルーム内保管・搬送システムを手掛け、1990年代には液晶向けにも範囲を広げています。一方で、世界経済のグローバル化に伴い、「お客さまの最前線での生産・調達」を経営の基本戦略として推進してまいりました結果、現在では、連結売上高の50%近くを海外分で占めるまでになりました。

このように、あらゆる産業界・国や地域からのニーズに応じて常に最先端の製品・システムを提供し続けてきた結果、マテリアルハンドリング分野で世界一、二を争うメーカー、システムインテグレーターに成長することができました。また、マテリアルハンドリング技術を応用して洗車機事業を育成し、さらに自動倉庫の制御機器からスタートした子会社・コンテックは2007年3月に東京証券取引所第二部上場を果たしました。

### コーポレートスローガンを制定

70周年を機に記念事業の一環として新しいコーポレートスローガン「Material Handling and Beyond」を定めました。これまでと同様、最適・最良のMaterial Handlingを追求する一方、日本におけるマテリアルハンドリング創成の夢を大きく育てていきたいという願いを込めています。モノを動かすことを通じて、人々に感動や喜びをもたらす企業であり続けたい、と強く決意しております。

4月からスタートした新中期3カ年経営計画「**Jump up for 2010**」のもと、ステークホルダーの皆さまから一層信頼される企業を目指してまいります。どうか今後とも一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本「社会・環境報告書2007」では、当社の社会的活動のご紹介と、2006年度に実施した環境保全活動についてのご報告を掲載しております。是非ともご覧いただき、私どもの活動のさらなる充実に向けてのご意見を賜れば幸甚に存じます。

2007年8月





滋賀事業所K、L棟

## 中期的な事業環境について

国内においては、個人消費の伸びが設備投資にも波及していくことで、民需中心の安定路線が持続することが期待されます。海外では、欧米景気の減速が懸念されるものの、中国をはじめとする新興国の経済は引き続き堅調であると予想されることから、世界経済も拡大を続けるものと期待されます。

当社は2007年度を初年度とする中期3カ年経営計画「**Jump up for 2010**」において、2010年3月期には営業利益率10%以上、海外売上高比率50%以上を達成することを主な経営指標として、マテリアルハンドリングシステム・機器業界において「質・量ともに世界ナンバーワン」を目指してまいります。

今後、当社が対処すべき課題は、新中期経営計画を完遂するとともに、内部統制システムを確立することにあります。

営業面では国内では豊富な納入実績という資産を生かしてのリニューアル、サービス事業をさらに強固なもの

にする一方、経済成長著しい中国を中心とするBRICs市場とアジア各国市場のさらなる開拓を進めてまいります。

生産面では前中期3カ年経営計画「Create & Challenge for the 70th Anniversary」において、国内外で活発な設備投資を行い、受注が2,500億円に到達しても十分賄える生産キャパシティを整備しました。今後は物づくりを実際に担う人材、とりわけ海外スタッフの育成に力を入れ、ダイフクイズムの浸透を図り、グループとして国内外を問わず同一品質・システムを全世界のお客さまに提供していくことが喫緊の課題です。このため、既に設立していた技能教育センターを基礎・要素技術の研究開発を行っている子会社に編入し、国境を越えた積極的な研修で、物づくりに関する人材・技術双方の育成と創造に努めてまいります。個々の製品に関する研究開発に関しては、メーカーの生命線であるとの認識のもと、重点的な投資を継続していきます。

## 内部統制システムの確立

2006年公布された会社法および金融商品取引法に基づき、内部統制システムの確立が強く求められていくことに対しては、内部統制統轄という機能を4月から新設しました。内部統制全般にわたる啓蒙活動、統制環境づくり、グループ内のリスクを幅広く認識・評価し、適切な対応あるいは体制を整備・運用し、国内外のグループ各社に定着させるのが狙いです。傘下にはBCP(Business Continuity Plan)推進本部を設け、企業が抱えるあらゆるリスク情報を収集し、事業を継続していくための計画を立案して、想定外ゼロの経営を目指します。また、管理統轄およびその傘下の内部統制推進室のもとでは、財務報告の健全性・正確性を追求し、信頼性確保に努めていきます。

## 国内外で生産拠点を拡充

2006年10月、滋賀事業所(滋賀県蒲生郡日野町)に建設中だった新工場棟2棟が完成、本格稼働を開始しました。これにより同事業所は11の工場棟が建ち並び世界最大級のマテリアルハンドリングシステム・機器の生産拠点となりました。

一方、海外においては、需要が旺盛な台湾・中国・タイ・韓国で工場の拡張を行いました。半導体・液晶生産ライン向けシステムを生産する「台湾大福高科技設備」では、2006年3月の本格稼働開始に引き続き、工場を拡張して、現地化をさらに推進。自動車生産ライン向け搬送機器を生産する「江蘇大福日新自動輸送機」(中国)、「Daifuku Thailand」、「ATS」(韓国)もそれぞれ工場の拡張・リフレッシュ工事を終え、さらなる生産効率アップを実現しました。このほか、BRICsの一角、ロシアでも、販売拠点としてサンクトペテルブルクに支店を開設しました。

## 社会貢献・環境を重視した企業活動

マテリアルハンドリングシステム・機器は、産業・物流・貿易を支える重要な社会インフラです。当社は経営理念の筆頭項目である「広く国内外に、最適・最良の、マテリアルハンドリングシステム・機器および電子機器を提供し、産業界の発展に貢献する」ことをモットーに、1937年の創業以来、顧客ニーズに応える技術を磨き、事業を発展させてまいりました。自動車産業やエレクトロニクス産業、流通産業を中心に、世界中の顧客からの信頼を積み重ねております。今後も激動する世界の産業動向に対応したソリューションやサービスの提供を通じ

て、社会の発展に寄与していく所存です。

一方、環境問題は世界各国でさまざまな取り組みが見られますが、当社においても、生産現場の環境問題や製品の環境への影響なども含めて、重要な経営の要素と認識した対応が求められています。企業活動のあらゆる面で安全、環境へのより真摯な対応のため、「S(Safety=安全)、Q(Quality=品質)、C(Cost=価格)、D(Delivery=納期)」という顧客満足度向上を図る施策に、「E(Ecology=環境)」も重視した企業活動を推進します。

### 社会・環境担当役員のコメント



社業を通じて  
幅広く社会に貢献

常務取締役  
管理統轄、海外統轄  
井上 正義

当社は、国内外の数多くの工場や配送センターに製品を納入しています。これらは、産業、貿易、物流を支える重要な社会インフラであるとの認識のもとに、最適、最良のシステムのご提供、サービス活動に全力を挙げています。

近年、お客さまの防災・リスク対策意識はさらに高まっており、納入システムが日々安定して稼働できるようにさまざまな安心・安全に関する製品やサービスをご提供しています。

70周年記念事業では、社会貢献活動を社内公募。当社製品の車いす用リヤリフトを搭載したワゴン車を福祉施設へ寄贈しました。この活動は来年以降も継続していく予定です。一方、海外においては現地法人を通じて、中国の発展途上地域へ「大福希望小学校」(仮称)建設費の半額を寄付する予定です。また、70周年記念誌では当社の社史的な要素のほか、業界全体の知られざる努力、挑戦姿勢を知る端緒にさせていただければ、と各事業を通しての社会貢献にも多くのページを割きました。



マテハン世界一、  
不動の地位を目指す

常務取締役  
生産統轄  
葛城 日文

当社は、社会的な企業責任(CSR)を全うするために法規制を順守し、生産現場での環境問題や製品の環境への影響なども含めて、環境問題を重要な経営の要素と認識しており、企業活動のあらゆる面で環境保全活動に取り組んでいます。

1999年に小牧・滋賀両事業所でISO14001の認証を取得して以来、現在は、東京・大阪・滋賀・小牧・東海・九州の6拠点(サイト)で運用しています。また、海外生産拠点に対して、ISO9001/14001の認証取得を徐々に拡大し、世界ナンバーワンのマテハン企業として顧客満足度の向上に日々努めております。

一方、国内では「S.Q.C.D.E」の向上を目指し、システムを効率的に機能させるためにISO9001/14001の認証機関を統一しました。今後は、内部・外部監査の同時審査や、文書を含めたシステムの統合化に取り組むとともに、将来の地球環境に対する取り組みで我々の企業責任を果たしていく所存です。



## ダイフクグループ一丸となって、環境対策に取り組む体制を整えています。

滋賀事業所、小牧事業所、大阪本社、東京本社、中部・東海地区(東海支店)、(株)九州ダイフクの6事業所にてISO 14001の認証を取得して、環境保全活動を行っています。ダイフクとは別にISO 14001の認証を取得している子会社の(株)コンテックも含めて環境パフォーマンスの報告をさせていただきます。



**大阪本社**  
所在地：〒555-0012  
大阪市西淀川区御幣島  
3丁目2番11号  
敷地面積：14,514m<sup>2</sup>  
建物床面積：19,236m<sup>2</sup>  
業務内容：物流システム・機器の営業、  
エンジニアリング、設計、  
工事・サービス、本社部門



**東京本社**  
所在地：〒105-0014  
東京都港区芝2丁目  
14番5号  
敷地面積：783m<sup>2</sup>  
建物床面積：3,572m<sup>2</sup> (1F~8F)  
業務内容：搬送、保管、物流システム・  
機器の営業、エンジニアリング、設計、  
工事・サービス、本社部門



**滋賀事業所**  
所在地：〒529-1692  
滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225  
敷地面積：1,160,000m<sup>2</sup>  
建物床面積：221,400m<sup>2</sup>  
業務内容：物流システム・機器のエンジニアリング、  
設計、工事・サービス、本社部門および倉庫  
生産額：約1,000億円



**小牧事業所**  
所在地：〒485-8653  
愛知県小牧市小牧原新田1500  
敷地面積：56,000m<sup>2</sup>  
建物床面積：9,300m<sup>2</sup>  
業務内容：物流システム・機器の営業、  
エンジニアリング、  
工事・サービス、本社部門  
生産額：約240億円

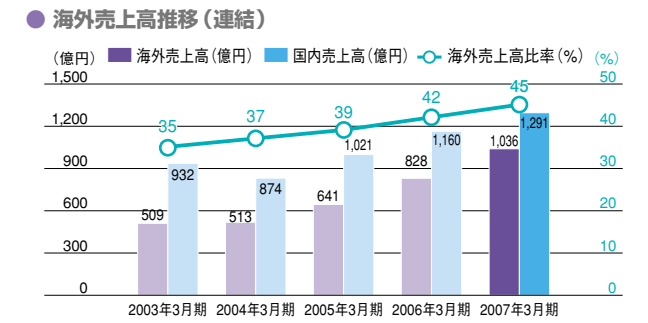
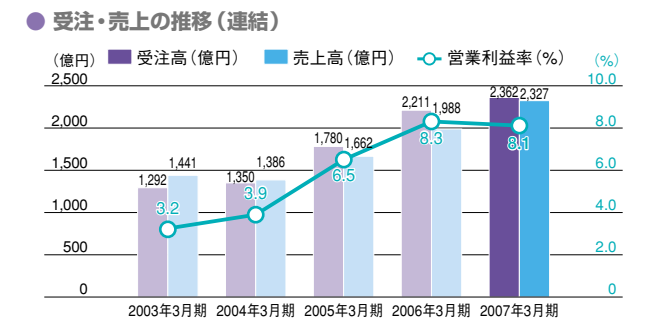
**中部・東海地区(東海支店)**  
所在地：〒471-0841 愛知県豊田市深田町2丁目48番  
敷地面積：2,784m<sup>2</sup>  
建物床面積：2,982m<sup>2</sup>  
業務内容：搬送システム他の販売

**(株)コンテック 本社**  
所在地：〒555-0025 大阪市西淀川区姫里3-9-31  
敷地面積：4,443m<sup>2</sup>  
建物床面積：7,339m<sup>2</sup>  
業務内容：FA用パソコン、インタフェースボード、LAN関連製品、  
遠隔監視・制御システムの開発、製造・販売

**(株)九州ダイフク**  
所在地：〒800-0323 福岡県京都郡刈田町大字与原文久2134-1  
敷地面積：25,000m<sup>2</sup>  
建物床面積：6,800m<sup>2</sup>  
業務内容：物流システム・機器のエンジニアリング、  
工事・サービスおよび倉庫

| ダイフクグループの事業活動   | 主な製品   |
|---|--|
| <b>AFA事業 (Automotive Factory Automation)</b><br>自動車業界向け搬送システムの開発、製造・販売                          | 保管 ●パレット自動倉庫「コンパクトシステム」●ケース自動倉庫「ファインストッカー」<br>●重量級移動棚「移動ラック」●垂直式回転棚「バーチカルカールセル」<br>●重量物用保管棚「ニューグッラック」●クリーンルーム用自動倉庫「クリーンストッカー」 他                                      |
| <b>FA&amp;DA事業 (Factory Automation&amp;Distribution Automation)</b><br>製造・流通業界向け物流システムの開発、製造・販売 | 搬送 ●自動車生産ライン用搬送システム「フレキシブルドライブシステム」<br>●モノレールシステム「ラムラン」●全方向移動型無人搬送車「FAV」<br>●天井走行式搬送システム「スペースキャリア」●クリーンルーム用搬送システム「クリーンウェイ」<br>●クリーンルーム用無人搬送車「クリーンAGV」 他              |
| <b>DTS事業 (Daifuku Technology Service)</b><br>製造・流通業界向け物流システムのメンテナンスサービス                         | 仕分け・ピッキング ●高速自動仕分け装置「ジェットサーフィンソーター」<br>●超高速小型立体ピッキングシステム「ピック&ストッカー」<br>●台車式ピッキングシステム「ピッキングカートシステム」<br>●積み取り式ピッキングシステム「デジタルピックシステム」<br>●種まき式ピッキングシステム「デジタルアソートシステム」 他 |
| <b>eFA事業 (e-Factory Automation)</b><br>半導体・液晶などの電子業界向け物流システムの開発、製造・販売                           | 物流機器 ●ロールボックスパレット「カーゴテナー」●メッシュボックスパレット「パレテナー」<br>●折り畳み式コンテナ「マジックコンテナ」●作業台車「レベルカート」 他   |
| <b>洗車機事業</b><br>洗車機の開発および製造(販売：(株)ダイフクユニックス)  | 情報システム ●物流センター管理システム(WMS)「eWareNavi(eウェアナビ)」 他   |
| <b>電子機器事業</b><br>FA用パソコン、インタフェースボード、LAN関連製品、遠隔監視・制御システムなどの開発、製造・販売(グループ企業の(株)コンテックが展開しています)     | その他 ●ボウリング場設備●洗車機●駐輪システム●福祉リフト●床下収納システム 他  |
| <b>特機事業</b><br>福祉と環境をコンセプトとした製品の開発、製造・販売  |  |

**会社名** 株式会社ダイフク  
DAIFUKU CO., LTD.  
**本社所在地** 大阪本社：大阪市西淀川区御幣島3-2-11  
東京本社：東京都港区芝2-14-5  
**設立年月日** 1937年5月20日  
**払込資本金** 80億2,400万円(2007年4月現在)  
**代表者** 代表取締役社長 竹内克己  
**従業員数** 約4,700人(ダイフクグループ総数)  
(2007年3月31日現在)  
**売上高** 2,327億300万円(2007年3月期連結)  
**事業内容** 物流システム(マテリアルハンドリングシステム)に関するコンサルティングと総合エンジニアリングおよび設計・製造・据付・サービス  
**主要製品** 搬送システム/保管システム/仕分け・ピッキングシステム/制御・情報システム/物流機器/その他(洗車機、ボウリング)



### ダイフクグループ

- (株)コンテック
- (株)コンテック・イーエムエス
- (株)九州ダイフク
- (株)ダイフクユニックス
- (株)ダイフク キュービカイーエムエフ
- (株)ダイフクポウルモアー
- (株)ダイフク・ロジスティック・テクノロジー
- (株)日に新た館
- (株)ダイフクデザインアンドエンジニアリング
- (株)ダイフク研究・研修センター
- (株)ダイフクビジネスサービス
- (株)ダイフクソフトウェア開発
- (株)ダイフクビジネスクリエイト
- (株)ダイフク・マニファクチャリング・エキスパート
- (株)ダイフクフィールドエンジニア
- (株)ルネス研究所
- 生産設備を有する企業
- 海外事務所  
(メキシコ、チェコ、サンクトペテルブルク、フィリピン、天津、上海)  
● Daifuku America Corporation (アメリカ)  
■ American Conveyor and Equipment, Inc. (アメリカ)  
■ Daifuku Canada Inc. (カナダ)  
■ Daifuku Europe Ltd. (イギリス)  
■ Daifuku India Private Limited (インド)  
● Daifuku (Thailand) Ltd. (タイ)  
■ Daifuku Mechatronics (Singapore) Pte. Ltd. (シンガポール)  
■ Daifuku (Malaysia) Sdn. Bhd. (マレーシア)  
■ P. T. Daifuku Indonesia (インドネシア)  
■ 大福自動化物流設備(上海)有限公司(中国)  
■ 大福自動輸送機(天津)有限公司(中国)  
■ 大福自動輸送機(広州)有限公司(中国)
- 江蘇大福日新自動輸送機有限公司(中国)  
■ 台湾大福物流科技股份有限公司(台湾)  
● 台湾大福高科技設備股份有限公司(台湾)  
● Clean Factomation, Inc. (韓国)  
● ATS Co., Ltd. (韓国)  
● MIMATS Co., Ltd. (韓国)  
● 大福洗車設備(上海)有限公司(中国)  
■ Daifuku Carwash-Machine Korea Inc. (韓国)  
■ Contec Microelectronics U.S.A. Inc. (アメリカ)  
● 北京康泰克電子技術有限公司(中国)  
● 上海康泰克電子技術有限公司(中国)  
● 台湾康泰克股份有限公司(台湾)
- 海外現地法人  
● 生産設備を有する現地法人



Daifuku America Corporation オハイオ工場



Daifuku (Thailand) Ltd. チョンプリ工場



江蘇大福日新自動輸送機有限公司



台湾大福高科技設備股份有限公司



ATS Co., Ltd.



Clean Factomation, Inc. 牙山工場



## ハイライト

ダイフクグループの主要な出来事をご報告します。企業活動にあたり、常に生産性や技術の向上を目指していますが、その根本として「社会貢献」の精神を忘れないようにしています。

### 社内公募案を中心に創立70周年記念事業を実施

当社は2007年5月20日、会社創立70周年を迎えました。これを記念して次のような事業を企画、実施しました。

#### ■福祉施設へリフト付きワゴン車を寄贈

当社製品の車いす用リフトを搭載したワゴン車を、当社最大の滋賀事業所がある日野町の3福祉施設へ1台ずつ計3台を寄贈しました。当企画は社内公募により採用したもので、来年以降も寄贈先を変えて継続実施していく予定です。

また、中国の経済後進地域へ、当社名を学校名とする「大福希望小学校」(仮称)建設費の半額(25万円=約380万円)を寄付します。現地法人「大福自動化物流設備(上海)」が創立5周年イベントを兼ねて企画したもので、詳細は今後詰めていきます。



贈呈式でリフト付きワゴン車に試乗される藤澤・日野町長

#### ■新コーポレートスローガンを策定

20年ぶりに刷新したコーポレートスローガンは「Material Handling and Beyond」。70年の歴史を振り返り、Material Handlingをコア事業とするゆるぎない企業姿勢と、そこから広がるさまざまな世界を表現しました。特に「Beyond」には、将来に向けての当社事業のさらなる可能性と、モノを動かすことを通じて人々に感動や喜びをもたらす企業でありたい、との想いを込めました。

## Material Handling and Beyond

#### ■記念誌を発刊

社史的な要素のほか、事業を通じての社会貢献という切り口で当社の知られざる側面を紹介しました。マテハンは産業・物流・貿易を支える重要な



162ページ、和英併記の記念誌

インフラであるにもかかわらず、社会における知名度・認知度は十分とは言えません。そこで、自社だけでなく、業界全体の知られざる努力、挑戦姿勢を知る端緒にいただければとの願いから、各事業を通しての社会貢献にも多くのページを割きました。

また、Material Handling関連や、設計・工事などに必要な専門用語をまとめた和・英・中用語辞典も発刊しました。

### 世界最大級のマテハン生産拠点が本格稼働

2006年10月、滋賀事業所の新工場棟2棟(K、L棟)が本格稼働を開始、11の工場を持つ世界最大級のマテハン生産拠点が誕生するとともに、当社の長年の夢であった「インダストリアル・パーク構想」が現実のものとなりました。

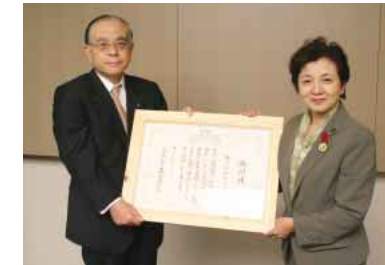
K棟は長さ195m、幅80m。自動倉庫周辺のコンベヤを年間約50km生産します。高さ45mの高層研究棟が併設され、スタッカークレーンの各種実験・開発を行っています。L棟(長さ180m、幅100m)は、スタッカークレーンを年間1,000台生産できる組立工場と、工作工場で構成。最新の大型工作機械を駆使して生産性を向上させています。



高層研究棟の内部

### 優良納税事業所表彰

2006年11月、滋賀事業所が滋賀県の優良納税事業所に選定されました。これは県内の高額納税企業を対象に、毎年数社を表彰しているもの。滋賀県の活力ある発展に寄与したということで、嘉田由紀子知事が来社され、感謝状をいただきました。嘉田知事は、総合展示場「日に新た館」の見学のほか事業所内もバスで一周、当社の多岐にわたる製品群、環境対策を視察されました。



感謝状を弊社社長・竹内へ手渡される嘉田知事

### 連続無災害5,000日達成

自動車生産ライン向け搬送機器を手掛けるAFA事業部は、2006年8月12日、納入先工事現場における連続無災害5,000日を達成しました。1992年12月から足掛け14年、一人ひとりがヒヤリハットの撲滅に努め、安全に対して強い意志を持って取り組んだことが、今回の記録につながりました。このAFA事業部のノウハウを他事業部にも展開し、全社的なゼロ災害を目指していきます。

### 環境に配慮した新「カーゴテナー」

ロールボックスパレット「カーゴテナー」を刷新、組立部21種類のメッキ部品への六価クロム使用を廃止し、三価クロメートへ切り替えました。また、樹脂ベース部の製造方法を変更。骨材を後から挿入する方式にすることで樹脂と鉄の分離がしやすく、廃棄時のリサイクル性を向上しました。



### 静音性に優れた洗車機を開発

洗車機の乾燥用ブロウ音を大幅に抑えた超静音ドライシステム「クリスタルドライ」を開発、2007年2月から発売を開始しました。洗車機騒音で最も大きいブロウ音を独自のサイレンサー機構と風の整流化などにより、騒音レベルを70dB台から60dB台前半へ約12%低減(当社比)。従来の強力なドライ効果を維持しながら騒音値では業界最低レベルを達成しました。



クリスタルドライを搭載した門型洗車機「エクスパージュ」

### 技能コンクール世界大会を開催

当社はこれまで、協力会社を含めた製造現場の技能向上のため、溶接・組立・測定3部門で、技能コンクールを開催してきました。第7回となった2006年は、アメリカ・韓国・中国・タイからも24名が参加した初の世界大会として開催。「ワン・カンパニー」として、世界のどの工場から出荷しても同じ品質、サービスを提供できる仕掛けづくりの一つとして、今後も継続していきます。



組立実技。手前は韓国の現地法人からの参加者



# コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンスとは、企業価値の最大化を図るために、経営方針を決定し、経営者の業務執行を監督したり評価することです。ダイフクでは、より魅力のある企業になるために、強い企業体質の構築を目指しております。

当社は、事業領域・市場・お客さまの3つの視点から「広く国内外に、最適・最良の、マテリアルハンドリングシステム・機器および電子機器を提供し、産業界の発展に貢献する」ことを経営理念の第一の柱としております。さらに、株主・お取引先・社員など、すべてのステークホルダーから真に信頼され、より魅力のある企業になるために、「収益性を重視した健全で成長性豊かな経営」を経営理念の第二の柱とし、世界的な競争に耐えられる、強い企業体質の構築を目指しております。

また、激しく変化する経営環境の中で、コンプライアンスを重視し、「清く、正しく、透明性のある企業経営」を通じ、企業の社会的責任を果たすことを経営基本方針の1つとしており、スピーディな経営の意思決定を行うため、取締役会では取締役各々の判断で意見を述べることで活性化を図っております。

また、「コンプライアンス委員会」を設置し、社長を委員長として企業活動における法令順守、公正性、倫理性を確保するための活動を行っており、この一環として、企業行動規範を制定し、当社グループのすべての役員および従業員が、業界のリーディングカンパニーとしての使命と役割を自覚し、広く社会に貢献するために順守すべき基本事項を定めております。

## 内部統制統轄・BCP推進本部などを新設

コーポレートガバナンス体制を一層充実・強化していくため、2007年4月に内部統制統轄、BCP（Business Continuity Plan）推進本部を新設しました。

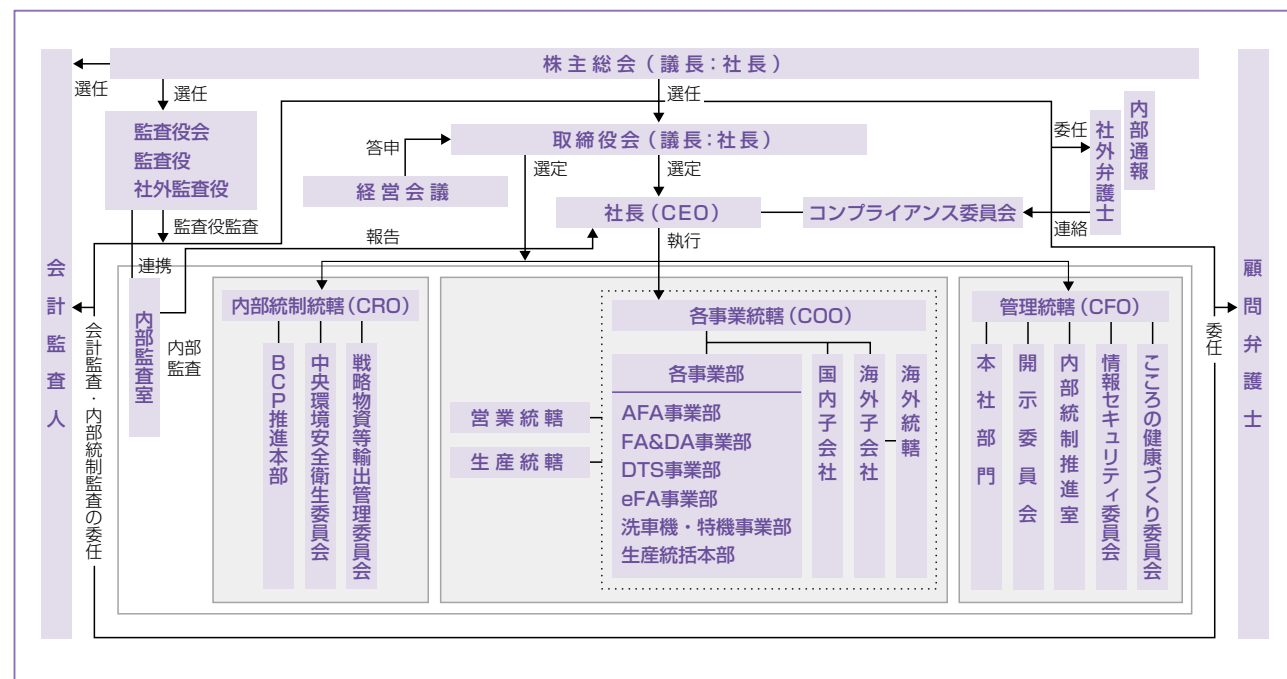
内部統制統轄は、副社長がCRO(Chief Risk Management Officer)として担当し、ダイフクグループの経営全般にわたるリスクへの対応などを図ります。

内部統制統轄の傘下にはBCP推進本部を置き、ダイフクグループのリスク認識・評価と適切な対応体制の整備・運用を行います。自然災害、事故、テロなどの緊急事態にあっても、事業資産の損害を最小にとどめつつ、中核となる事業の継続、早期復旧を可能にする計画を定めておきます。

また、管理統轄内部統制室を内部統制推進室に改編しました。同室は、財務諸表の信頼性の確保を中心に、内部統制の仕組みの構築を推進します。CFO(Chief Financial Officer)の傘下には、開示委員会、情報セキュリティ委員会、こころの健康づくり委員会などを設置しています。

内部通報制度(社外弁護士直通の相談窓口)も新設しました。

## ■ コーポレートガバナンス体制 模式図

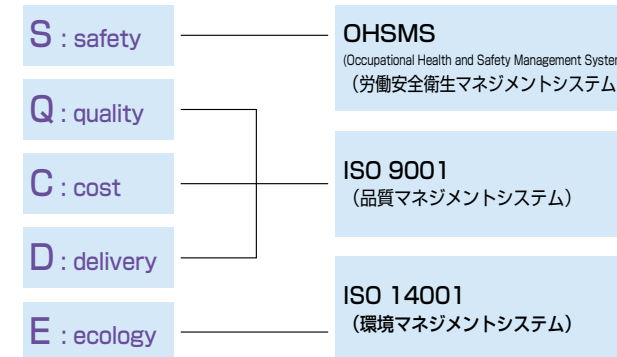


# 全社統合マネジメントシステム

ダイフクはお客さまにより良い製品をお届けすることを使命としております。その目標実現のために「労働安全衛生マネジメント」「品質マネジメント」「環境マネジメント」それぞれのシステムを構築しております。

メーカーにとって、より良きQCD(品質、コスト、納期)の実現は最も根源的なテーマです。加えて当社は、経営基本方針の1つとして、「環境・安全を重視した製品・システムの納入ならびに国内外の生産体制の構築に万全を期する」を掲げており、「S.Q.C.D.E」として包括的に考えています。

従来、品質、環境はISOのマネジメントシステムを導入してレベルアップを図ってきましたが、労働安全衛生マネジメントについても、滋賀事業所からOHSMS(労働安全衛生マネジメントシステム)の運用を開始。事務所・工場・据付現場・アフターサービスのそれぞれの段階で安全と衛生を確保していきます。



## 品質マネジメントシステム

ビジネスの原点は、お客さまと供給者との信頼関係。品質・コスト・納期とも、お客さまにより信頼される製品を作り続けていきます。品質・コスト・納期に関する基本方針は、最良の品質、期日通りの納入、技術に見合ったコスト、高い安全性、また最も技術的に先進の製品を生み出すことにより、お客さまに100%満足していただくことです。ISO(国際標準化機構)が規定するISO9001にのっとった品質マネジメントシステムにより、CS(顧客満足)のあくなき追求を基本として、企画から販売、設計、製造、据付、アフターサービスまで、それぞれの段階で品質を保証します。

## 環境マネジメントシステム

当社はマテリアルハンドリングシステム・機器の総合メーカーとして、国内外を問わず幅広く事業活動を展開しています。当社では生産部門、非生産部門も含めた環境マネジメントシステムを構築し、事業を展開する中で発生するさまざまな環境負荷をライフサイクル全般にわたり、客観的な数値でとらえ、現状把握と分析により、改善に努めています。

## 労働安全衛生マネジメントシステム

「メーカーは安全第一、安全をすべてに優先させる」ことを基本とします。「労働災害の撲滅」を目標に職場の実態に即した安全衛生活動を実践します。

当社では、環境・品質・安全に配慮した労働安全衛生マネジメントシステムを構築、全社横断的な運用を推進していきます。

### 重点実施項目

- (1) 環境に適した、安全な製品づくり
- (2) 心と体の健康づくり
- (3) 快適職場環境づくりー5Sの実践(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)

全社環境安全衛生管理体制を構築し、不測の事態発生時の速やかな情報伝達ルートの明確化と、国内外の安全管理体制の強化を図っています。

## Column 環境・安全衛生メッセージ

環境・安全に関する経営トップ層のメッセージを国内外の従業員に向けて、毎月1回動画によりネットワーク配信しています。このメッセージは2004年7月からスタートしたもので、今後も環境・安全に対する意識向上をさらに高めていくため、継続していきます。



「安全メッセージ」(社内イントラネット)

|                  |  |
|------------------|--|
| 社会・環境に関する規制の順守状況 |  |
| <b>規制の順守</b>     | 環境に関する法規制の順守はもちろんのこと、法律・社内規定および社会通念を含めた規範の順守をこれからも続けていきます。 |

**社会との関係・社会的責任**

当社は「経営基本方針」で、「清く・正しく・透明性のある企業経営」「国内外の法令及び社会規範を遵守する経営」「環境・安全を重視した製品、システムの納入ならびに国内外の生産体制の構築」など、企業の社会的責任を強く自覚し、このことを記したしおりを全社員に配布しています。このしおりには、「企業行動規範」も記載されており、基本方針として次の5つを掲げています。

■ **企業行動規範 基本方針**

**企業活動を通じた社会への貢献**

ダイフクは、環境・安全を重視し、快適で豊かな社会に役立つ製品・システムを開発、提供します。

**グローバルカンパニーとしての自覚と法令・社会規範の遵守**

ダイフクは、グローバルな視点で国際基準やルールを積極的に取り入れるとともに、国内外の関係法令および社会規範に則った公正・透明な企業活動を行います。

**ステークホルダーからの信頼**

ダイフクは、株主、顧客、協力会社、社員等のステークホルダーを尊重し、健全で良好な関係を築きます。

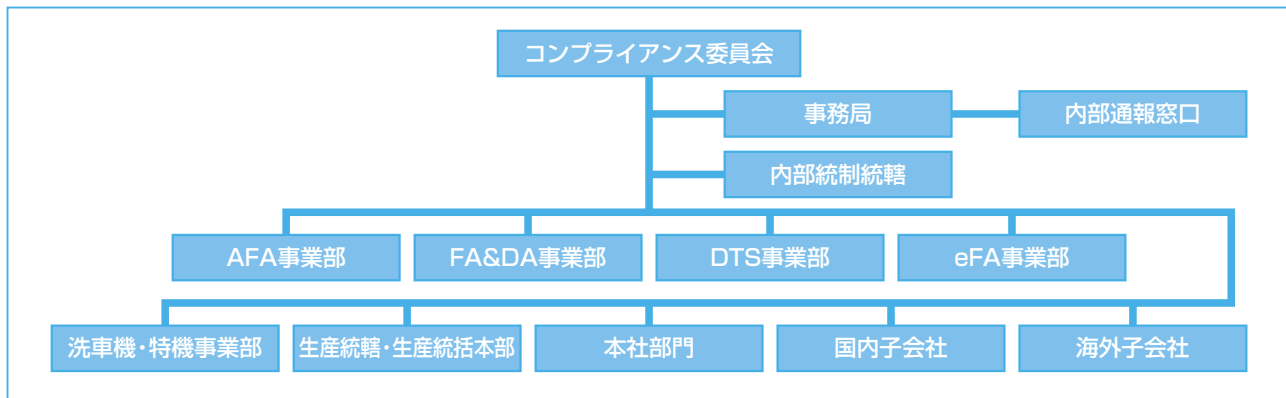
**地域社会への貢献**

ダイフクは、良き企業市民として、積極的に地域社会に貢献します。

**社員の人格・個性の尊重**

ダイフクは、自由闊達な明るい企業風土の醸成のため、社員の人格・個性を最大限尊重します。

■ **コンプライアンス委員会体制**



**コンプライアンス委員会**

法律や社内規定の順守だけでなく、社会通念、常識、倫理を含めた規範のコンプライアンス（法令順守）が、企業にとって非常に重要な課題となっています。当社でも2003年12月、コンプライアンス委員会を立ち上げ、全社員に対して理解を深める活動を展開しています。

また、2007年4月、社内外からの当社グループのコンプライアンスに関する質問や相談に対応するため、報告・相談窓口として社外弁護士事務所へのホットラインを設けました。

**環境関連法規制への適合状況**

【順守状況】

2006年度は法規制に対して問題はありませんでした。今後も各部門の状況を監視していきます。

【法規制の改正その他】

毎年9月に法改正などの環境情報を調査し、関係部門に開示。法規制に対して全社レベルで対応しています。

|                   |                                       |
|-------------------|---------------------------------------|
| 個人情報保護に係る情報       |                                       |
| <b>情報セキュリティ体制</b> | 業務上知り得た個人および顧客企業の情報の取り扱いには細心の注意を払います。 |

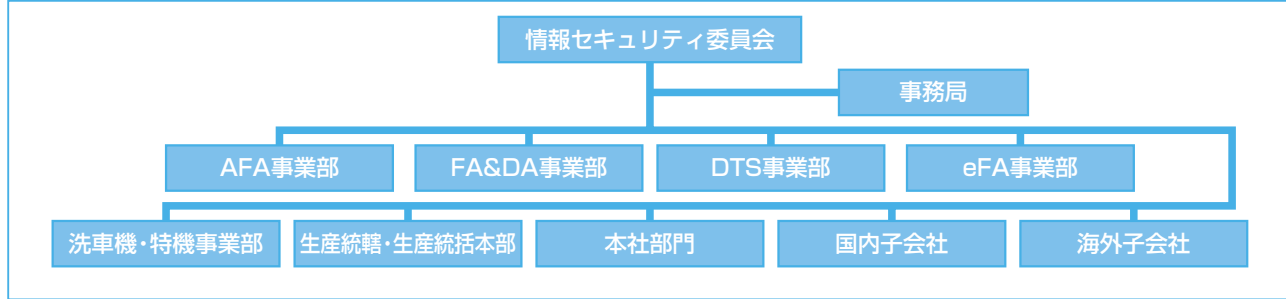
**情報セキュリティ委員会**

従業員情報・顧客情報・技術情報・経営情報など“企業が持っている情報”の管理について、全社一定のルール・認識で取り組むために、「情報セキュリティ委員会」を2004年8月に発足。2005年3月には、情報資源の保護（情報セキュリティ）を最大限に確保することを目的に情報セキュリティ基本方針を定めました。この基本方針に基づき関連規定を制定、社内報やイントラネットなどで啓蒙・徹底を図りながら委員会による内部監査を実施しています。

**個人情報に関する規範**

- 業務上知り得た顧客、販売店、協力会社、社員、競合会社その他利害関係者に関する情報は正当な目的以外に使用しません。
- 社員一人ひとりのプライバシーを尊重し、個人情報の取り扱いには慎重かつ細心の注意を払い、適切な管理を行います。
- 当社の情報（技術・ノウハウなど）の財産価値を十分認識して、厳重に管理します。
- 当社の情報（技術・ノウハウなど）は、在職中のみならず、退職後においても、不正に利用したり、漏洩したりしません。
- 不正な方法を用いて顧客、販売店、協力会社、社員、競合会社その他利害関係者に関する情報を入手しません。

■ **情報セキュリティ委員会体制**



|                |   |
|----------------|---|
| 人権および雇用に係る情報   |   |
| <b>人権および雇用</b> | 経営理念の1つとして「全社員の人格・個性を尊重し、自由闊達な明るい企業風土をつくる」を掲げ、経営の重要課題と位置付けています。 |

**「人事相談室」の設置**

2003年度より導入した「新人事処遇制度」における社内活性化施策として「人事相談室」を開設し、従業員からの相談窓口を設けています。新人事処遇制度に関する相談、評価・処遇問題に関する相談、職場環境に関する相談、健康管理に関する相談などを受け付け、従業員の問題解決に協力しています。また、「役員席とのグループ希望対話制度」も同時に設け、経営と従業員の意思の疎通を図っていきます。

**雇用の創出**

現在、ダイフクグループの従業員数は、国内外で約4,700名。3年前に比べ36%増となっています。これは、グループ企業および海外現地法人の増加が主な要因です。また、当社は、定年退職者と役職定年者を再雇用するための100%子会社3社を2005年4月に設立。経験豊富なベテラン社員による技術・技能の継承に努めています。



労働安全衛生に係る情報

## 労働安全衛生

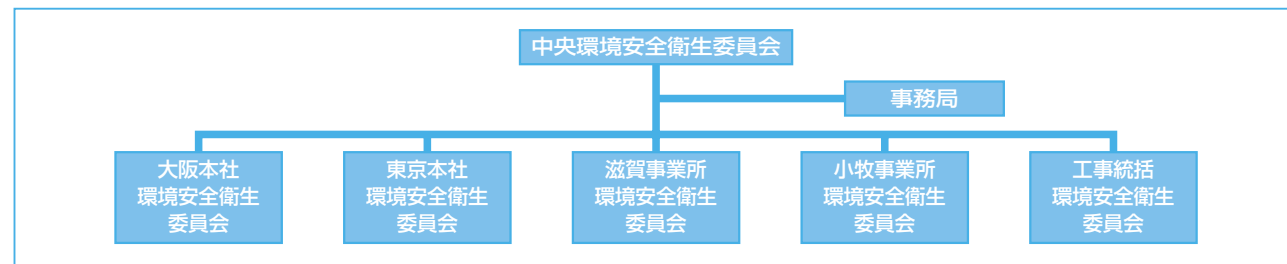
「365日無災害(休業災害)の実現」を目指して、「安全活動の推進」「巻き込まれ、はさまれ災害の撲滅」「交通安全活動の推進」「快適職場環境」を重点実施項目に掲げ、職場自主改善活動を行っています。

### 全社環境安全衛生管理体制

安全対策・安全管理は事業における最優先課題。当社は創立以来全社を挙げて「安全第一・災害ゼロ」に取り組んでいます。不測の事態発生時の速やかな情報伝達ルートの明確化と、国内外の安全管理体制の強化を目的とした「全社環境安全衛生管理体制」の確立もその一環。また、環境安全衛生委員会のメンバーが毎月、各工場を5Sパトロールしています。5S

(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)を永続的な職場自主改善活動として定着させるとともに、生産性の向上、職場の活性化、ゼロ災職場の実現を図ります。工事関係者に対しては横断的安全文化の継承・定着ならびに災害ゼロの徹底を目的とした「工事統括環境安全衛生委員会」を設置しています。

### ■ 全社環境安全衛生委員会体制



### 工事現場の安全パトロールを実施

「工事統括環境安全衛生委員会」の活動の一環として、各事業部のトップおよび工事責任者が工事現場を安全巡視する「安全パトロール」を実施しました。これは、各事業部のトップが他事業部の現場に赴き安全活動に参画することで、お互いに良いところを吸収する試み。今後も随時、活動を続けていく方針です。



安全パトロール

### こころの健康づくり委員会

「こころの健康づくり委員会」では、●従業員自身によるケア、●管理監督者(上司)によるケア、●産業医・保健師によるケア、●外部機関・専門家によるケアの4つのケアを中心に整備・検討を行い、従業員が安心して働ける職場づくりを行っています。

また、滋賀事業所(小牧事業所兼務)と東京本社に健康相談室を開設。産業医や保健師が健康診断結果に基づいた保健指導や、また産業カウンセラーとして、心や体の健康に関する相談など、社員の健康管理のサポートをしています。

### Comment 環境・安全活動担当者のコメント

#### 5S活動で快適で安全な職場づくりを目指す

3年前から環境安全衛生委員を中心に5S活動に取り組んできました。無災害の継続や、自主的な清掃、置き方の工夫など少しずつではありますが、その効果が現れてきました。

5S活動もP(Plan=計画)、D(Do=実施)、C(Check=評価)、A(Act=改善対応)をしっかりと実施し、導入から発展、進化へと移行させ、快適で安全な職

場づくりを目指しております。

また、各地区の安全衛生委員会もその地域に対応した取り組みを実施しており、安全衛生面だけではなく、職場の環境にも取り組むべく、安全衛生の前に環境をつけ、環境安全衛生委員会として意識付けを行い取り組んでいます。



内部統制統轄  
安全推進グループ 滋賀  
片岡 静枝

広範な消費者保護および製品安全に係る情報

## 品質マネジメントシステム

製品の品質管理および安全性に対して、お客さまからの信頼に応えるため、体制の構築、社員教育・啓蒙などさまざまな方向から取り組んでいます。

### 品質管理体制

2002年度より、滋賀・小牧事業所の各事業部の横軸として専門部会を一体化(滋賀・小牧共通テーマ)して活動を推進しています。

各部門の部門事務局および専門部会の部会長と定期的にISO推進会議を開催し、活動報告を実施しています。また、経営層によるマネジメントレビューを年2回開催し、各部門および専門部会の運営計画の実行内容を評価しています。

品質専門部会は、設計部会、管理部会、製造部会、購買部会、品質部会、工事サービス部会、営業EG部会を配置し、各事業部の横軸として種々の品質課題への対応・対策を進めています。

### リスクアセスメントの実施

製品の安全性を徹底するため、エンジニアリング・開発・設計部門からなる設計部会で規定文書を作成し、新規開発製品および既存機種についてリスクアセスメントを実施完了しました。さらに、製造部門においては事業所の環境安全衛生委員会において生産設備のリスクアセスメント、工事・サービス部門においてはISOの部会を通じて据付工事現場のリスクアセスメントに取り組んでいます。

### 品質教育・啓蒙

当社の物づくりの手法を独自の「D-MAND」(Daifuku Manufacturing And Design System)として体系付け、滋賀事業所に専門機関を設けて、講座や実習などを行っています。

また、当社では、小集団活動に力を入れ、現場での地道な改善を継続させることで大きな効果を上げています。2006年度の小集団による提案活動では、業務改善・コストダウン・品質・安全・環境などに関する提案が2,506件と目標の1.2倍にのぼり、活発な活動を続けています。そのハイライトとして、年2回、経営トップが参加して、予選を勝ち抜いたチームによる発表大会を開催しています。また、同大会で入賞したチームを文部科学大臣表彰「創意工夫功労者賞」に推薦し、従業員のモチベーションアップにつなげています。

### 製品の安定稼働

地震大国日本において、自動倉庫の地震対策にも注目が集まっています。当社では、地震対策にも力を注いでいます。阪神大震災などの大地震では、格納物の落下被害が度々起きています。これを受け、防災意識・リスク対策意識はさらに高まっており、お客さまのリスクマネジメントに貢献することがマテハントップメーカーとしての責任と考えています。2006年に開催された国際物流総合展では開発を進めている制振ラックを出品しました。

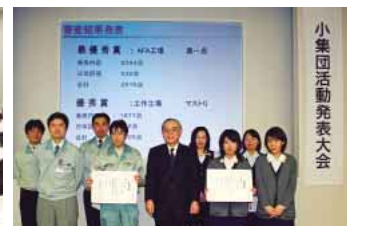
また近年、生産・流通の現場で物流設備を24時間稼働する企業が増加しています。このため、その中心的機能を果たす自動倉庫システムや仕分けシステムの安定稼働がこれまで以上に重要になってきました。当社の独自技術により開発した予知予報システム「DAGUARD(ダガード)」は、設備の稼働状況を的確に監視することで、機器・部品の残寿命やメンテナンス必要時期の予測などを可能にしています。



展示会での制振ラックのデモ



「D-MAND」での研修



小集団活動発表大会

### Column 世界各地でISO認証を取得

ダイフクグループでは、2006年から海外工場でのISO認証取得も進めています。北米(ダイフク・アメリカ)、韓国(CFI、MIMATS)、中国(江蘇大福日新自動輸送機、上海康泰克電子技術)、タイ(ダイフク・タイランド)でISO9001認証取得を終えました。韓国・MIMATSではISO14001の認証も取得しています。



ダイフク・アメリカでの監査



環境情報開示、環境コミュニケーションの状況

## コミュニケーション活動

当社の環境への取り組みを多くの方々に知っていただくため、さまざまなイベントへの参加や各種媒体での情報公開を進めています。今後も良き企業市民として、社会との円滑なコミュニケーションを図っていきます。

### 滋賀事業所での環境研修

地域コミュニケーションの一環として、2006年5月に滋賀事業所の地元である日野町の主要企業50社による日野町企業協議会の開催場所として「日に新館」を利用していただき、ダイフクの企業活動を地元企業に印象付けることができました。また、2006年10月のK、L棟竣工式には滋賀県や地元の関係者をお招きしてダイフクのPRとコミュニケーションに努めました。来社の方には、「日に新館」の見学や、環境活動をまとめた「サイトレポート」の配布で、ダイフクの企業活動や環境への取り組みをご紹介します。



滋賀・日野町企業協議会

### 滋賀県環境保全協会「会員研修」

滋賀事業所の社員が理事を務める(社)滋賀県環境保全協会では、会員の環境保全の意識向上と技術レベルアップを図るため、会員研修を行っています。2006年11月には会員企業にて研修会および地区別懇談会、工場見学を実施し、地域社会ネットワークの一員として環境問題に取り組んでいます。



滋賀県環境保全協会会員研修会

### 小牧の展示会で環境活動を紹介

小牧事業所近くのパークアリーナで開催された「こまき産業フェスタ」(2006年5月)に地元企業の1社として参加。会社紹介ビデオ・パネルのほか、当社の環境活動を地域住民の方々に紹介しました。



こまき産業フェスタ

### 小牧市ISOネットワークで各社と協力

愛知県北部に位置する小牧市は、車輛製造を中心として製造工場が多い土地柄早くから環境問題に取り組んできました。その1つとして小牧市内のISO14001環境マネジメントシステム取得事業者を中心に水質汚濁や大気汚染、省エネルギー活動と学習、討議の機会をISOネットワーク活動として環境改善に取り組んできました。当社もその一員として、地域環境改善に取り組んでいます。

### アンケートに関する協力状況

当社の環境への取り組みや品質などに関するアンケートが2006年度の1年間で25件寄せられました。当社ではアンケートへの回答も環境コミュニケーションの一環と位置付け、ISO推進グループを中心に誠意ある対応を心掛けています。

### アンケート集計分析

(期間：2006年4月～2007年3月)

| アンケート先  | 環境関係 | (内、化学物質) | 品質、他 | 計   |
|---------|------|----------|------|-----|
| 新聞・雑誌   | 1    | (0)      | 1    | 2件  |
| 官公庁・協会  | 7    | (3)      | 2    | 9件  |
| 企業・社団法人 | 9    | (2)      | 5    | 14件 |
| 学校関係    | 0    | (0)      | 0    | 0件  |
| NPOほか   | 0    | (0)      | 0    | 0件  |
| 計       | 17   | (5)      | 8    | 25件 |

### 従業員とのコミュニケーション

従業員への環境活動の一環として、ISO活動状況やISOについての理解度を高めるため「ISOニュース」や廃棄物部会からの「エコニュース」を定期的に発行しています。2006年度は各々2回発行しました。



社会貢献活動の状況

## 社会貢献活動

当社は、地域の環境美化や、住民の方々への感謝を示すため、従業員による美化・清掃活動など、多方面にわたって社会に貢献しています。

### 地域の美化・清掃活動に参加

滋賀事業所では2001年12月から、月1回、休休みや定時後に、国道307号など事業所周辺の清掃(淡海エコフオスター)を行ってきました。

また、滋賀県日野町の「しゃくなげ溪」の整備・清掃活動に参加しました。地域のしゃくなげは「ほんしゃくなげ」という珍しい種類で、天然記念物に指定されています。地域貢献として今後も継続して参加していく方針です。

小牧事業所においても事業所や寮周辺の清掃のほか、「小牧山美化活動」に参加し、地域環境活動に協力しました。

東海支店では周辺の清掃活動のほか、交通安全立番を実施しています。



淡海エコフオスター



「しゃくなげ溪」整備・清掃活動



小牧事業所周辺の清掃活動



東海支店の交通安全立番

### 献血運動への積極参加に感謝盾

当社では毎年、主要事業所で献血に協力しています。このうち大阪本社とグループ会社のコンテック・大阪、滋賀事業所が、日本赤十字社から同社の献血事業に積極的に協力している団体として「金色有功章」に選ばれ、「献血感謝のつどい」でそれぞれに盾が授与されました。

大阪本社では、毎年11月、滋賀事業所では5月に団体献血を実施、毎年それぞれ30名、100名ほどが献血しています。長年にわたる献血事業への理解・参加が、他の模範として評価されたものです。



授与された感謝盾

### 地域住民との交流

滋賀事業所では毎年2回、「ダイフク杯日野町ゲートボール大会」を開催。約200名(30チーム)の参加があり、優勝を目指して熱戦が繰り広げられます。当大会は地域住民の方々との交流の場として1992年より15年連続で開催しています。



ゲートボール大会開会式

### Column 機械式立体駐輪場「サイクルハウス21」

JR京葉線・新浦安駅前の複合施設「MARE(マーレ)」と名古屋駅前の超高層ビル「ミッドランドスクエア」に、それぞれ1,028台、224台収容可能な「サイクルハウス21」を納入しました。

駅前の放置自転車は、大きな社会問題。交通を妨げ、景観を損なうだけでなく、撤去費用が自治体にとって大きな負担になっています。現在、駅前の再開発事業には多くの自治体が駐輪場付置義務を課しており、空間を有効活用できる機械式立体駐輪場に高い関心が寄せられています。

テレビ番組でも紹介されたMAREのサイクルハウス21





事業活動における環境配慮の方針

環境基本方針

環境方針を従業員一人ひとりに周知・浸透させるとともに、各事業所の玄関などに掲示して、ステークホルダーの皆さまにも開示。当社の活動が広く社会に認知いただけるように努めています。

環境方針

■ 基本理念

事業をグローバルに展開しているダイフクは、法令順守のもと、地球環境の保全が人類最重要課題の一つであることを認識し、マテリアルハンドリングシステムおよび機器の開発・生産・販売・工事・アフターサービスの事業活動のあらゆる側面で、資源の保護ならびに地球環境の汚染予防に配慮して行動する。

■ 基本方針

- (1) 環境と人との調和を指向する環境管理体制・組織を設け、環境関連の法律や協定を順守し、自主基準を定めて持続的に環境保全活動を推進する。
- (2) 環境影響評価を行い、環境目的および目標を設定して、環境汚染の予防を推進し、環境マネジメントシステムとパフォーマンスの継続的改善を図る。
- (3) 製品の開発・設計段階から、生産・使用・廃棄に至る企業活動のあらゆる側面で省エネルギー、省資源および環境汚染の予防に配慮した製品を提供する。
- (4) 必要な資源の調達・購入に際して、より環境負荷の少ない材料・部品・製品を優先的に調達・購入するとともに、サプライヤーへの指導・支援を通してサプライチェーンの協調連帯を図る。
- (5) 地域社会の一員としての環境汚染予防の責任を果たし、健全かつ安全で快適な地域社会作りに貢献する。
- (6) 従業員の環境意識を高め、自らが環境保全活動を遂行できるよう、環境教育・啓発運動を展開する。

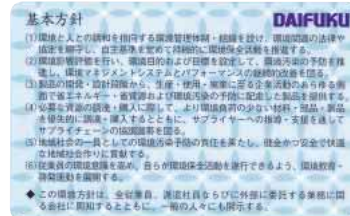
この環境方針は、全従業員、派遣社員ならびに外部に委託する業務に関する会社に周知するとともに、一般の人々にも開示する。

制定 1999年1月7日  
改訂 2005年8月1日

Column 環境意識の高揚

■ 「環境方針カード」を配布

「企業の社会的責任」を環境面で果たす狙いから、当社の環境に関する考え方を周知徹底するため「環境方針カード」を作成し全グループ社員に配布しています。なお、このカードは地球温暖化防止の観点から、環境循環型素材「植物系生分解性プラスチック」を使用しています。



事業活動における環境配慮の取り組み

環境目的・目標と実績

下表は、環境負荷が高いと考えられる生産拠点、滋賀・小牧両事業所を中心としたダイフクグループ(大阪本社、東京本社、滋賀事業所、小牧事業所、東海支店、九州ダイフク)の2006年度の重要テーマの実施状況と自己評価および2007年度の目標です。

■ 2006年度 環境目的・目標・実績

| 環境目的 (2004年~2006年) | 2006年度の環境目標  | 2005年度評価 | 詳細   |
|--------------------|--|----------|------|
| 環境保全               | ・排出物管理の強化  | ◎        | →P27 |
|                    | ・環境法規制の順守  | ◎        | →P10 |
| エネルギーの削減           | ・原単位エネルギーの削減(電気、LPG) 2006年度までに2003年度比10%削減                             | ◎        | →P23 |
|                    | ・紙の使用量の削減 2006年度までに2003年度比10%削減  | ◎        | →P25 |
| 廃棄物の削減             | ・原単位廃棄物の削減(一般廃棄物、産業廃棄物) 2006年度までに95%リサイクル化 2006年度までに2003年度比廃棄物総量の20%削減 | ◎        | →P24 |
|                    | ・紙の使用量の削減 2006年度までに2003年度比10%削減  | ◎        | →P25 |
| 間接影響               | ・グリーン調達先・協力会社の支援・指導  | ◎        | →P28 |
|                    | ・グリーン調達の推進(有害物質の使用禁止)  | ◎        | →P28 |
| 環境に配慮した製品提供        | ・製品の3Rの取り組み 3R(リデュース・リユース・リサイクル)                                       | ◎        | →P28 |
|                    | ・製品の電気エネルギーの低減   | ◎        | →P28 |

◎達成 ○ほぼ達成 △未達成

■ 2007年度 環境目的・目標

| 環境目的 (2007年~2009年) | 2007年度の環境目的・目標  |
|--------------------|---|
| 環境保全               | ・排出物管理の強化<br>・環境法規制の順守  |
| 地球温暖化防止            | CO <sub>2</sub> 削減活動の推進<br>・滋賀事業所は2006年度基準で2009年度は生産額原単位10%削減する。<br>・国内その他および国内非生産拠点は2009年度は2006年度基準で排出量を6%削減する。          |
| 廃棄物の削減             | 廃棄物の削減<br>・2009年度までに2006年度比、廃棄物総量の20%削減する。<br>・紙の使用量の削減 2009年度までに2006年度基準で使用量を10%削減する。(滋賀事業所のみ原単位)<br>・2009年度までに98%リサイクル化 |
| 間接影響               | ・グリーン調達の推進(有害物質の使用禁止)<br>・グリーン調達先・協力会社の支援・指導  |
| 環境に配慮した製品提供        | ・製品アセスメントの実施 エコラベル製品化展開<br>・グリーン調達の推進(有害物質の使用禁止)  |



ダイフクの事業活動と環境のかかわり

## 事業活動の マテリアルバランス

当社はマテリアルハンドリングシステム・機器の総合メーカーとして国内外を問わず幅広く事業活動を展開しています。その際に発生するさまざまな環境負荷をライフサイクル全般にわたり、客観的な数値でとらえ、現状把握と分析により、改善に努めています。

### IN PUT



**電力**  
37,579千kWh  
→ P.23



**紙**  
157t  
→ P.25



**LPG/都市ガス**  
3,867kℓ  
→ P.23



**軽油・ガソリン**  
284kℓ  
→ P.23



**化学物質**  
→ P.26



**水**  
301,278m<sup>3</sup>  
→ P.27

## DAIFUKU

### 生産拠点

滋賀事業所  
小牧事業所  
(株)九州ダイフク  
(株)コンテック

### 非生産拠点

大阪本社  
東京本社  
中部・東海地区  
(東海支店)

### 顧客

自動車業界  
製造・流通業界  
半導体・液晶業界  
など



発注

環境にやさしい  
製品の提供

### OUT PUT



**廃棄物**  
6,762t  
→ P.24



**排水**  
301,278m<sup>3</sup>  
→ P.27



**再資源化物**  
6,446t  
→ P.24



**騒音**  
→ P.27



**振動**  
→ P.27



**CO<sub>2</sub>**  
27,275t-CO<sub>2</sub>  
→ P.22



**NO<sub>x</sub>**  
→ P.26



**SO<sub>x</sub>**  
→ P.26



**COD・BOD**  
→ P.27

●CO<sub>2</sub> (Carbon Dioxide) 二酸化炭素 ●NO<sub>x</sub> (Nitrogen Oxide) 窒素酸化物 ●SO<sub>x</sub> (Sulfur Oxide) 硫黄酸化物  
●COD (Chemical Oxygen Demand) 化学的酸素要求量 ●BOD (Biochemical Oxygen Demand) 生物的酸素要求量

### 環境会計の総括

## 環境会計

当社では、企業としての継続的な発展を確保しながら環境対策を推進して行くために、環境保全に関する投資や費用、さらにその効果を把握することが重要な課題ととらえています。そのために2001年度から環境会計を導入し、企業活動の指針として活用しています。

### 環境会計についての考え方

企業活動のうち環境保全にかかわるコストと効果を定量的に把握するため、環境省の指針に基づく「機械工業における環境会計ガイドライン」\*に準拠した会計を実施しています。

環境保全コストは下表のように約5億790万円となりました。2004年度からは、九州ダイフクおよびコンテックも対象範囲に加えた合計値としています。

非生産部門である大阪本社、東京本社、東海支店では「社員の環境教育」「環境活動組織の運営人件費」などが費用額の

大部分を占めています。

経済効果は、実質的効果額として約2億3,900万円となりました。製品の開発による効果は現時点では算出根拠が不明確なため報告、実績からは除外しています。

今後は、環境会計指標の設定とそれによる評価を行うなど、充実した環境会計の推進を図り、「環境経営」のツールとして生かしていく考えです。

\*「環境会計・環境報告書の標準化に関する調査研究報告書」(社)日本機械工業連合会 出版

2006年度環境会計 集計範囲：大阪本社、東京本社、滋賀事業所、小牧事業所、東海支店、九州ダイフク、コンテック 対象期間：2006年4月1日～2007年3月31日

### 環境保全コスト

| 分類               | 主な取組みの内容                     | 費用額 (千円) |
|------------------|------------------------------|----------|
| 生産活動での環境負荷の低減    | ・廃水処理場など水質汚濁活動、塗装設備の更新       | 128,129  |
| 産業廃棄物対策の実施       | ・廃棄物処理費用、廃棄物のリサイクル費用         | 83,574   |
| 環境保全に優れた資材・機材の採用 | ・グリーン調達推進、搬送治具の製作・回収         | 17,818   |
| 環境負荷の少ない製品の開発    | ・省エネルギー、軽量化、部品点数削減などの開発費     | 203,984  |
| 自社製品の回収・再利用      |                              | 70       |
| 輸送にともなう環境負荷低減    | ・治具による輸送効率の改善                | 2,020    |
| 緊急時の対応           | ・緊急事態訓練                      | 570      |
| 管理部門などにおける環境保全   | ・生ゴミリサイクル対応、照明および空調更新        | 25,339   |
| 海外事業展開における環境配慮   | ・海外出荷品の梱包方法改善                | 1,124    |
| 環境管理の実施          | ・ISO推進グループ運営費、内部監査、外部監査、環境教育 | 43,125   |
| 社会との共生           | ・淡海エコフォスターへの参加、地域環境整備に参加     | 2,152    |
| 合計               |                              | 507,905  |

### 経済効果

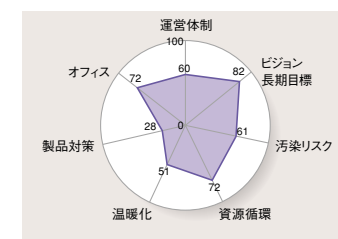
| 効果項目           | 効果内容                       | 効果額 (千円) |
|----------------|----------------------------|----------|
| 有価物などの売却額      | ・金属屑、非鉄金属屑、上級古紙などの売却益      | 109,005  |
| 省エネルギー効果       | ・コージェネレーション効果(CFA棟空調効果)・照明 | 126,311  |
| リユース・リサイクル・省資源 | ・梱包材のリユース・リサイクル            | 1,200    |
| 通い箱化           | ・メッシュボックスパレット「パレテーナ」活用など   | 2,500    |
| 合計             |                            | 239,016  |

### Column 環境経営度調査

#### ■ 製造業1,741社中、281位にランキング

2006年12月、第10回「環境経営度調査」(日本経済新聞社)の結果(右図)が発表されました。当社は、製造業1,741社中の281位。昨年度(272位)よりもランクダウンしました。2004年度から「オフィス」の項目が追加評価され、国内グループ企業全体および環境配慮設計の取り組み、企業の社会的責任を加味した総合的な評価が行われました。

また、日本経済新聞社が日経リサーチと共同開発した多角的企業評価システム「PRISM(プリズム)」による、2006年度優良企業ランキングが2006年3月発表され、当社は1,047社中、177位にランキングされました(昨年度213位)。



※環境経営度調査は、上場企業、新興市場上場、非上場の有力企業のうち製造業(建設・エネルギーを含む)1,741社を対象(有効回答31.1%)に実施されました。

環境負荷と対策効果の把握・評価

## 環境マネジメントシステム

環境保全活動のベースとなる環境マネジメントシステムにより、環境負荷と対策結果を把握・評価しながら、効果的に活動を進めています。事業を展開するなか、生産部門、非生産部門も含めた環境マネジメントシステムを構築しています。

### ISO取得状況

1999年に滋賀・小牧の両事業所がISO14001の認証を取得し、2002年にはダイフクの子会社であるコンテックが認証を取得しました。2004年には、大阪本社、東京本社、東海支店および、子会社・九州ダイフクの4拠点が新たにISO14001認証を取得しました。これにより環境活動に関するISOの全社的な運用体制が確立しました。

■ダイフク、九州ダイフク

■コンテック



### 環境管理体制

代表取締役社長を最高責任者とした全社的な環境管理体制を構築し活動しています。

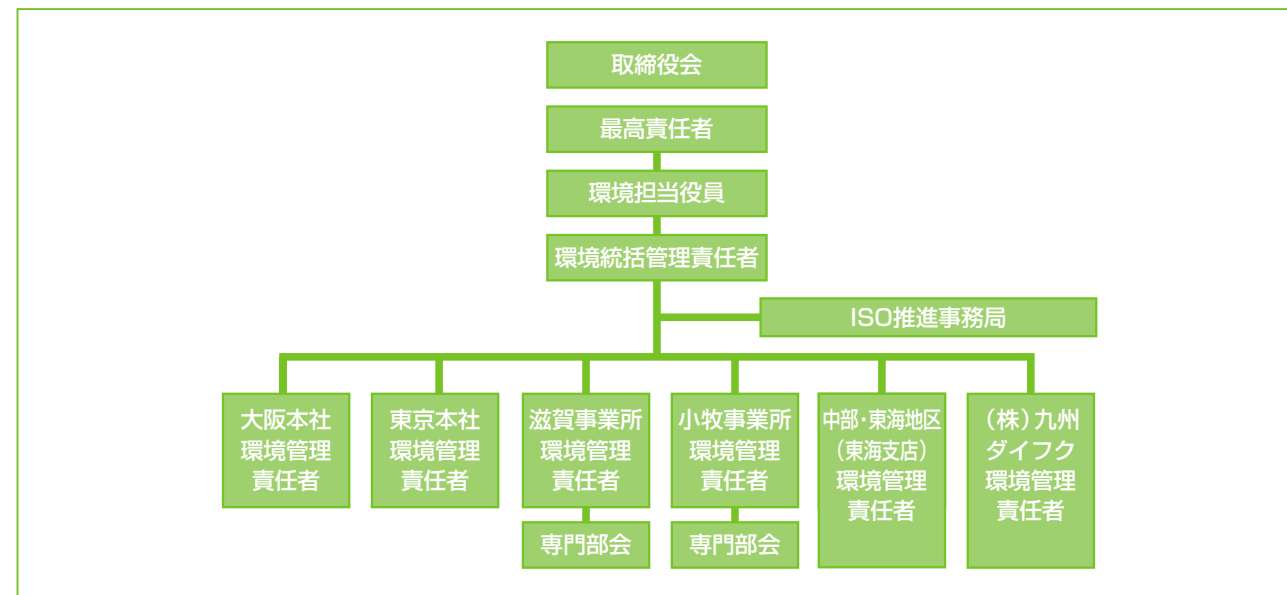
2006年度の具体的な活動としては、各拠点の環境管理責任者および各環境専門部会の部会長で構成したISO推進会議を定期的開催。また、経営層によるマネジメントレビューを5月と10月の2回開催し、各部門および専門部会の活動計画の実行内容を評価しました。

環境専門部会は、廃棄物部会・エネルギー部会・有害物質管理部会・水質管理部会を設置し、各事業部の横軸として種々の環境課題への対応・対策を進めています。



ISO認証工場の看板(滋賀事業所)

### 2006年度推進組織



### 環境監査体制

環境マネジメントシステムが適切であるか、法規制・規定が守られているか、効果的に運用しているか、などを確認する認証機関による外部監査(第三者監査)と、社内監査員による内部監査(自己監査)を定期的実施しています。

内部監査ではシステムの運用状況、目的・目標の推進計画の実施・進捗状況、さらに法規制や自主基準の順守などを監査します。不適合を指摘された部門は改善計画を提出して、その実施に取り組みます。監査の結果は、マネジメントレビューで報告し、対策・フォローを行っています。

### 外部監査結果(年2回)

| 大阪本社、東京本社、滋賀事業所、小牧事業所、東海支店、九州ダイフク |    |
|-----------------------------------|----|
| 2006年度上期                          |    |
| 指摘事項                              | 1件 |
| 観察事項                              | 5件 |
| 2006年度下期                          |    |
| 指摘事項                              | 0件 |
| 観察事項                              | 4件 |

### 環境教育・啓発

環境活動を定着させるため、すべての従業員、協力会社などに対して部門内環境活動推進計画を一般教育として実施、一人ひとりの参加意識を高めています。併せて、業務の専門性に応じた環境教育や特定従業員教育なども実施、法規制の順守に努めています。

また、ISO14001の環境マネジメントシステムは2004年12月に2004年版が発行され、2004年版での認証を2005年8月に取得しました。

内部監査員教育では、e-ラーニングを活用し公平な判断能力の育成とレベル向上を図っています。

### 緊急事態体制

緊急事態の予防および事態が生じた場合の環境への影響を防ぐため、子会社コンテックも含めグループ全体にわたりマネジメントシステムを確立しています。各事業所では年1回、想定した緊急事態について教育・模擬訓練を実施しています。



マネジメントレビュー



滋賀事業所での緊急事態訓練



外部監査

### Comment 環境・安全活動担当者のコメント

#### お客さまへ環境に配慮した製品を提供

大阪本社においては、2006年度から「紙・ゴミ・電気」は継続的に削減活動を維持するとともに自部門の業務に絡めた推進計画により、環境に配慮した製品を提供する活動を全員で展開しています。AS/RS(自動倉庫)、移動ラックでは省エネルギータイプの提案活動にて受注件数が20%アップできました。機器商品ではパレターナのクロムフリータイプの提案販売を展開し、安定

した実績を確保できています。また、代理店、販売店に対しては、環境を切り口とした製品勉強会(集客セミナー、展示会含む)を80回実施して情報の提供およびコミュニケーションを大事にしております。

今後もお客さま並びに代理店、販売店へ環境に配慮した製品を継続的に提供できるように生産部門とタイアップして活動していきます。



FA&SA事業部 支店統括部 大阪支店長

森本 薫



総エネルギー投入量およびその低減

# 省エネルギー・省資源化への取り組み

当社では電力・燃料の投入量の削減と使用効率化に向けて、非生産部門も含めて全社的に実践しています。滋賀事業所は第一種（電気および熱）エネルギー、管理指定工場であり、省エネルギー法に基づいた適切な管理手順による活動を推進しています。

## CO<sub>2</sub>排出量およびその低減対策

当社では地球温暖化の原因であるCO<sub>2</sub>など温室効果ガスの排出量削減に取り組んでいます。

滋賀・小牧事業所では2006年度は2003年度に比べ8% CO<sub>2</sub>排出量が増加しましたが、生産額の増加と各部門の省エネルギー活動により、原単位CO<sub>2</sub>排出量は2003年度比43%削減することができました。

2006年度は九州ダイフク、コンテックおよび非生産拠点も含めたCO<sub>2</sub>排出量を把握し、2005年2月発効の「京都議定書」で定められた日本のCO<sub>2</sub>排出量削減目標をもとに、今後、削減目標を設定しています。

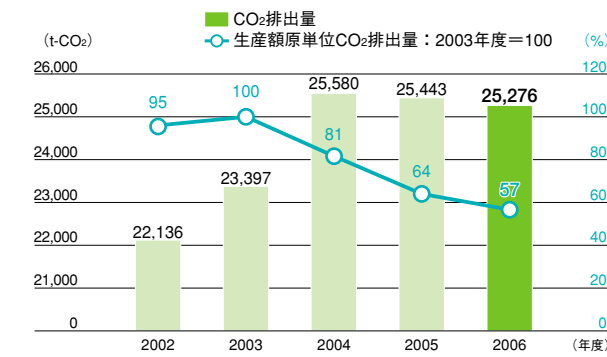
## 輸送に係る環境負荷の状況

2000年から滋賀事業所と小牧事業所の製品出荷用トラックの輸送量を把握するとともに、出荷情報の集中管理および輸送方法の改善、製品の構造見直しによる積載荷物の省スペース化など、輸送の効率化を図り、CO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。

しかしながら、2006年度は生産額の増加に伴って2003年度比30%増のCO<sub>2</sub>を排出しました。また、走行距離においても30%増になりました。

## CO<sub>2</sub>排出量

### ● 滋賀・小牧事業所実績



|        | 2005年度 | 2006年度 |
|--------|--------|--------|
| 全社     | 27,783 | 27,275 |
| 大阪本社   | 867    | 682    |
| 東京本社   | 259    | 230    |
| 滋賀事業所  | 21,783 | 22,752 |
| 小牧事業所  | 3,660  | 2,523  |
| 東海支店   | 284    | 257    |
| 九州ダイフク | 307    | 223    |
| コンテック  | 623    | 608    |

### ■ CO<sub>2</sub>排出量と走行距離、トラック台数

|  | 2002      | 2003      | 2004      | 2005      | 2006      |
|--|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> ) | 7,083     | 6,718     | 6,513     | 8,679     | 8,728     |
| 走行距離 (km)                                | 6,707,850 | 6,361,524 | 6,166,813 | 8,219,405 | 8,265,458 |
| トラック換算 (10t換算)                           | 19,586    | 17,735    | 17,375    | 21,536    | 21,789    |

(滋賀・小牧事業所実績)

## Comment 環境・安全活動担当者のコメント

### 廃棄物の排出量については、目標を達成

東京本社では、①電気量の消費削減、②廃棄物の排出量削減とリサイクル率向上、③紙使用量の削減を中心に、環境負荷低減に取り組んでおります。廃棄物の排出量については、廃棄物排出ルールを策定。「専用シールを貼り付け、指定日(月末)に部署毎に廃棄場所へ」と排出管理を徹底することで、排出部署不明な廃棄物がなくなり、目標を達成することができました。

一方、2007年度6月1日～9月30日の4カ月間は全社的に環境保全への取り組みとして、事務所内の空調設定を28℃としています。東京本社においても、環境負荷低減・電力量削減の双方の視点で取り組んでいきます。環境活動は、一人ひとりの理解と小さな積み重ねが重要であり、地道な活動で環境に配慮したやさしい職場づくりを目指します。



総務部 東京総務グループ長 青野 和弘

## 燃料使用量の削減

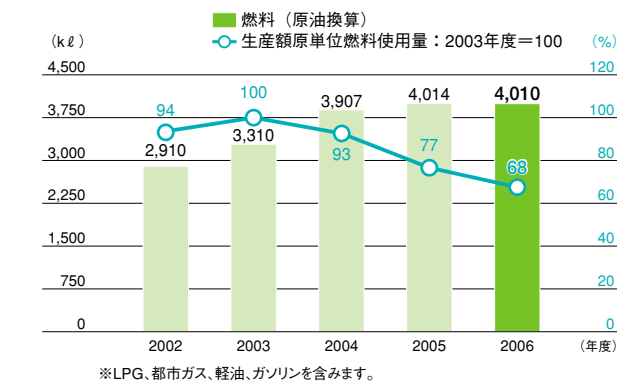
滋賀事業所は、第一種エネルギー管理指定工場であり、電気および熱ともに監視管理しています。2006年度には部門ごとの熱エネルギー使用量の把握および削減と管理標準の見直しを行いながら、さらなる省エネルギー活動をエネルギー部会で推進しています。

小牧事業所では、冷暖房を省エネルギー設定(夏季28℃、冬季20℃)にして、都市ガス使用量の削減に努めています。また、2005年度からは温室効果ガス抑制も考慮して、社有車にハイブリッド車を導入しています。

滋賀・小牧事業所の2006年度は燃料使用量が2003年度比21%増加したものの、原単位燃料使用量は32%削減となり、2003年度比10%削減目標を大きくクリアしました。

## 燃料使用量

### ● 滋賀・小牧事業所実績



※LPG、都市ガス、軽油、ガソリンを含みます。

|        | 2005年度 | 2006年度 |
|--------|--------|--------|
| 全社     | 4,190  | 4,152  |
| 大阪本社   | 43     | 20     |
| 東京本社   | —      | —      |
| 滋賀事業所  | 3,583  | 3,688  |
| 小牧事業所  | 431    | 322    |
| 東海支店   | 45     | 45     |
| 九州ダイフク | 35     | 33     |
| コンテック  | 53     | 44     |

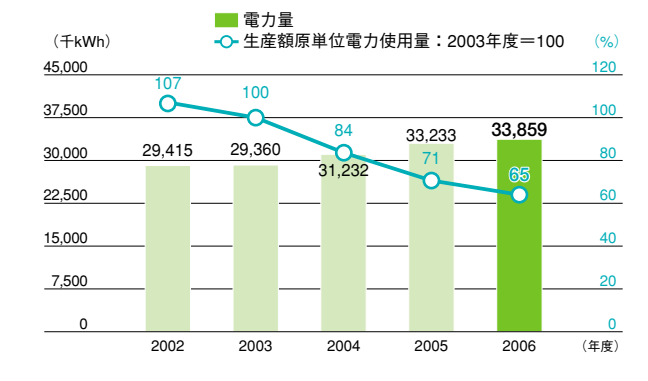
## 電力の省エネルギー

当社はあらゆる場面で電力使用の効率化を図っています。滋賀事業所は熱と同様に電気も第一種エネルギー管理指定工場であり、生産設備の省エネルギー化をはじめ、事務棟内でも照明器具の工夫やセンサー式の点灯制御を採用するなど積極的な活動を行っています。小牧事業所では前年度より継続して照明器具にインバータ制御を採用した設備に更新しています。また非生産拠点などでは空調温度の適正化、こまめな消灯といった活動を徹底しています。

滋賀・小牧事業所の2006年度は電力使用量が2003年度比15%増加したものの、原単位電力使用量は35%の削減となり、2003年度比10%削減目標を大きくクリアしました。

## 電力使用量

### ● 滋賀・小牧事業所実績

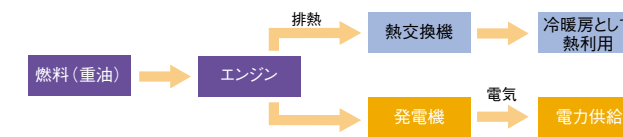


|        | 2005年度 | 2006年度 |
|--------|--------|--------|
| 全社     | 37,062 | 37,579 |
| 大阪本社   | 1,293  | 1,289  |
| 東京本社   | 530    | 521    |
| 滋賀事業所  | 26,129 | 29,232 |
| 小牧事業所  | 7,104  | 4,627  |
| 東海支店   | 361    | 307    |
| 九州ダイフク | 364    | 295    |
| コンテック  | 1,281  | 1,308  |

## Column コージェネレーションシステム

### ■ 滋賀事業所では30%を自家発電!

滋賀事業所は第一種エネルギー管理指定工場に指定される電力需要規模を有しており、1997年からコージェネレーションシステムを導入してエネルギーの有効利用に取り組んでいます。現在、事業所全体の電力需要のうち、30%をこのコージェネレーションシステムで自家発電しており、ここから発生する排熱エネルギーは、クリーンルーム用空調熱源としても有効に活用しています。



1997年1月から稼働

排出量およびその低減対策

## 廃棄物の削減

当社では、各事業所から排出される各種廃棄物の回収容器、回収方法、収集場所などの基準を設け環境保全活動を実施しています。また、廃棄物排出の一元管理により一層のリサイクル率向上に取り組んでいます。

### 廃棄物の削減

滋賀・小牧事業所から排出する廃棄物は、次の事項に留意し、分別・回収しています。

- (1) 専用の分別容器に回収する。
- (2) 分別容器置場には廃棄物の名称を表示して、あらかじめ定められた廃棄物のみ回収する。
- (3) 廃溶剤などで引火点の低い危険物(シンナー、アルコールなど)の回収には、密閉できる容器の空缶などを使用し、回収後は密閉を確実に施し油脂倉庫に保管する。
- (4) その他特殊な廃棄物が発生する場合は、事前に分別容器、収集方法・保管などを定め廃棄物部会の承認を得た上で回収を行う。

2006年度は廃棄物部会を中心に各部門の協力を得て環境パトロールを実施。生産額の増加と老朽化設備の廃棄もありましたが原単位廃棄物総量は2003年度比20%削減となり、目標の20%を達成することができました。廃棄物総量の70%が鋼材スクラップであり、今後、統合マネジメントにより対応していきます。

「廃棄物のリサイクル化95%」の目標に対して、分別リサイクルに積極的に取り組んだ結果、滋賀事業所は96%、小牧事業所は95%と目標を達成しました。

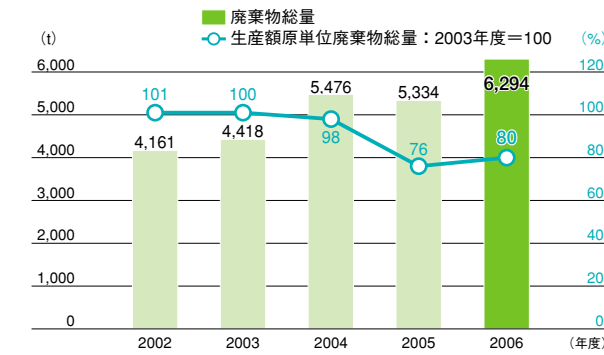
また、九州ダイフク、コンテックおよび非生産部門である大阪本社、東京本社、東海支店においても分別回収の徹底および紙の購入量を削減するため、両面使用や帳票の電子化を推進しています。



廃棄物管理ボード

### 廃棄物総量

#### ● 滋賀・小牧事業所実績



|        | 2005年度 | 2006年度 |
|--------|--------|--------|
| 全社     | 5,829  | 6,762  |
| 大阪本社   | 207    | 141    |
| 東京本社   | 55     | 46     |
| 滋賀事業所  | 4,648  | 5,619  |
| 小牧事業所  | 686    | 675    |
| 東海支店   | 22     | 23     |
| 九州ダイフク | 154    | 129    |
| コンテック  | 57     | 129    |

#### ■ 再資源化の実態

目標「95%のリサイクル化」に対し、滋賀96%、小牧95%。

|          | 滋賀事業所 |       | 小牧事業所 |       | リサイクル |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|
|          | 重量(t) | 率(%)  | 重量(t) | 率(%)  |       |
| 有価物売却量   | 4,546 | 80.9  | 237   | 35.1  | }     |
| 売却廃棄物量   | 0     | 0.0   | —     | —     |       |
| 自社再資源化量  | 21    | 0.4   | —     | —     |       |
| 委託先再資源化量 | 858   | 15.3  | 404   | 59.9  |       |
| 非再資源化量   | 194   | 3.5   | 33    | 4.9   |       |
| 廃棄物総量    | 5,619 | 100.0 | 675   | 100.0 |       |

### Column 汚泥の再資源化

#### ■ 汚泥をセメント原料にリサイクル

滋賀事業所では2004年4月から、従来は埋立て処分していた工業用排水中の汚泥をセメントの原料として再資源化しています。

事業所で使用する工業用水は1日あたり800t。その大半を塗装ラインで使っています。油や鉄粉が混じった排水は排水処理プラントで処理し、その際に回収した汚泥を乾燥炉で顆粒状になるまで細かく砕いて水分を落とし、重量を1/10にして出荷しています。

このような地道な努力を積み重ねることにより、ごみゼロの達成を目指しています。

### 廃棄物のゼロエミッション化

環境調和型社会を目指し、企業責任として廃棄物の再資源化を進め埋立て廃棄物の削減と廃棄物総量の2003年度比20%削減(2006年度目標)を目標としたゼロエミッション活動(自己宣言:廃棄物95%リサイクル化)を推進しています。

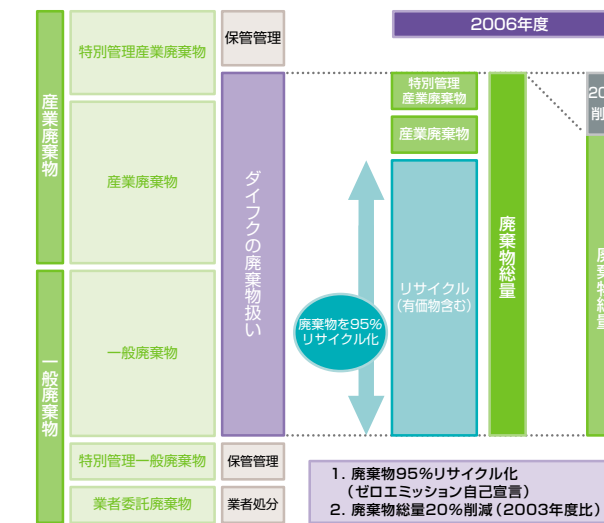
#### 1. 埋立て廃棄物の削減

工業用排水中の汚泥を乾燥炉で細かく砕いて顆粒状に処理した物や木材などの燃え殻をセメントの原材料として再資源化を行っています。また生ごみ処理機で生成したコンポスト(堆肥)は、工場内の植木の肥料としてリサイクルしています。さらに、塗料カスのリサイクル化も推進しています。

#### 2. 廃棄物総量の削減

廃棄物の再資源化だけでなく、鋼材スクラップなどの有価物の削減を図り、廃棄物総量の削減を目指しています。今後は、企業活動で排出する廃棄物の削減のみでなく、当社製品のリサイクル性を考慮した製品開発を進めていきます。

#### ■ 廃棄物の定義および削減目標



### 紙の使用削減とリサイクル

環境保全に大きな役割を果たす森林保護のために、当社では紙のリサイクルを推進しています。

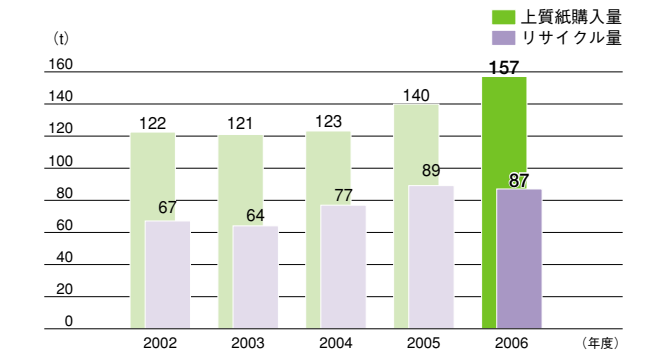
滋賀・小牧事業所では、リサイクルした上質紙を購入する一方、購入量を削減するため用紙の両面使用や帳票の電子化を徹底しています。しかしながら、2006年度上質紙購入量は、国内外引き合い件数や生産額の増加に伴って、2003年度比10%の削減目標に対して約30%の増加となりました。各部門とも電子データの利用による紙の購入量削減を目指しています。

また、両面利用などを行い使い尽くした紙は、上級古紙としてリサイクルしています。2006年度はリサイクル率2003年度比約2%アップ、購入量の約55%をリサイクルすることができました。

小牧事業所では、プロジェクターを積極的に利用することで会議資料などのコピーを極力減らして、紙の削減に努めています。

### 上級古紙リサイクル推移

#### ● 滋賀・小牧事業所実績



上級古紙の回収

### Comment 環境・安全活動担当者のコメント

#### 滋賀への工場移転に伴う解体工事を法令順守で推挙

小牧事業所では、工場が滋賀へ移転となり、工場の解体工事が行われています。解体に伴い、アスベスト含有スレートの手バラシによる撤去や、最終処分場の現地確認、工作機械跡に残った油分の流出を防ぐための清掃、工場から出た排出物の分別仕分けなど適正な処理に注力してまいりました。

今期からは現場からの引取廃棄物の管理と、廃棄物のリサイクル率アップ、電力使用料の削減、作業環境の改善に重点を置き、全員で活動に取り組んでいきたいと思っています。



ダイフクビジネスサービス  
小牧施設グループ グループ長  
岩永 敏行



排出量およびその低減対策

## 環境汚染物質の排出抑制と管理

当社の生産活動では、多種多様な化学物質を使用しており、環境に著しい負荷を与えるものも含まれています。環境汚染物質についても、定期点検の実施や管理の徹底を図り使用量を削減するとともに、より安全な物質への代替に取り組んでいます。

### PRTR管理

当社では、自主的に化学物質の管理を徹底し、環境保全上の支障を未然に防止することで「特定化学物質の環境への排出量および改善の促進に関する法律（PRTR法）」を順守しています。

特定化学物質を使用する小牧・滋賀事業所では、年間排出量を把握するとともに環境負荷の低い化学物質への代替を推進しています。

2006年度は、有害化学物質不使用を目標にして、環境負荷の低い原材料を積極使用し有害物質を低減してきました結果、前年比で15%の削減となりました。

今後、さらに環境負荷の低い化学物質材料を使用し、顧客満足が得られる製品提供を推進します。

### 大気汚染防止

滋賀事業所は、滋賀県の大気環境への負荷の低減に関する条例第25条第1項に基づき、「大気環境負荷低減計画実施事業場」に指定されています。コージェネレーションシステムを有するため、ばい煙による大気汚染物質の管理、削減に努めています。設備の保守点検についても、法や条例で定められているものに対して定期点検を行うことはもちろん、その他の設備についても随時自主点検を実施しています。

#### ●滋賀事業所（日野町公害防止協定）

| 物質                               | 施設     | 規定値  | 実測値   |
|----------------------------------|--------|------|-------|
| 窒素酸化物 (NOx) (PPM)                | 発電機    | 950  | 880   |
| 硫酸酸化物 (SOx) (m <sup>3</sup> N/h) | 温水ボイラー | 2.3  | 0.183 |
| ばいじん (g/m <sup>3</sup> N)        | 温水ボイラー | 0.10 | 0.005 |
|                                  | 温水ボイラー | 0.20 | 0.001 |

### ●PRTR法対象化学物質取扱い量（2006年度 滋賀・小牧事業所実績）

| 管理物質番号 | 化学物質名                     | 取扱量    | 排出量    |           |        |      | 移動量    |         |        | (kg)  |
|--------|---------------------------|--------|--------|-----------|--------|------|--------|---------|--------|-------|
|        |                           |        | 大気への排出 | 公共用水域への排出 | 土壌への排出 | 埋立処分 | 排出量合計  | 製品への移動量 | その他の移動 |       |
| 1      | 亜鉛の水溶性化合物                 | 399    | 0      | 0         | 0      | 0    | 0      | 315     | 84     | 399   |
| 29     | ビスフェノールA                  | 2,639  | 0      | 0         | 0      | 0    | 0      | 1,715   | 924    | 2,639 |
| 40     | エチルベンゼン                   | 5,440  | 5,440  | 0         | 0      | 0    | 5,440  | 0       | 0      | 0     |
| 43     | エチレンジクロール                 | 884    | 884    | 0         | 0      | 0    | 884    | 0       | 0      | 0     |
| 63     | キシレン                      | 40,020 | 40,020 | 0         | 0      | 0    | 40,020 | 0       | 0      | 0     |
| 224    | 1,3,5-トリメチルベンゼン           | 539    | 539    | 0         | 0      | 0    | 539    | 0       | 0      | 0     |
| 227    | トルエン                      | 23,846 | 23,846 | 0         | 0      | 0    | 23,846 | 0       | 0      | 0     |
| 230    | 鉛およびその化合物                 | 411    | 0      | 0         | 0      | 0    | 0      | 366     | 46     | 411   |
| 309    | ポリ(オキシエチレン) = ノニルフェニルエーテル | 2,168  | 0      | 0         | 0      | 0    | 0      | 0       | 2,168  | 2,168 |

※年間取扱量100kg以下の化学物質については、微量として割愛しました。

### 総排水量およびその低減対策

水質汚濁は、土壌、農作物、生活環境などに幅広く影響を与える重要な問題であるとの認識のもと、事業所からの排水に対しては、法規制などの順守はもちろん、細心の注意を払って管理、削減に努めています。

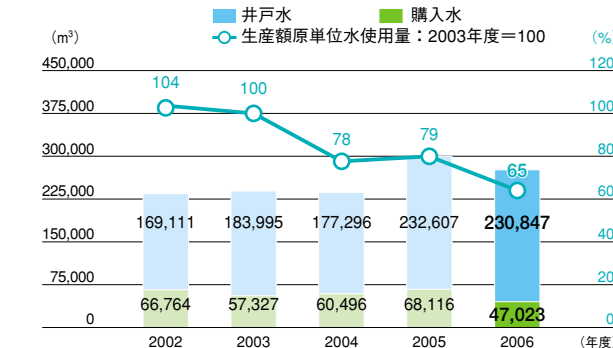
滋賀事業所での生産活動に伴う排水は、事業所内にある総合排水処理施設で処理した後、一級河川の佐久良川に放流しています。また、雨水溝からの排水は防災池に貯溜されます。そのため事業所内の設備の維持管理、保守点検の徹底のため定期パトロールを実施したり、排水処理施設からの放流水の測定を行っています。生活環境項目については月1回、有害物質項目については年2回実施しています。

一方、小牧事業所では、洗車機、厨房施設、塗装の前処理設備からの排水を下水道に流しています。毎月、外部機関による排水(下水道法の水質基準に準拠)の監視測定を実施しています。

滋賀・小牧事業所の2006年度原単位水使用量は2003年度比35%の大幅減少となりました。

### 水使用量

#### ●滋賀・小牧事業所実績



|        | 2005年度  | 2006年度  |
|--------|---------|---------|
| 全社     | 324,500 | 301,278 |
| 大阪本社   | 10,855  | 9,881   |
| 東京本社   | 5,619   | 5,340   |
| 滋賀事業所  | 255,056 | 253,177 |
| 小牧事業所  | 45,667  | 24,693  |
| 東海支店   | 2,034   | 2,008   |
| 九州ダイフク | 784     | 937     |
| コンテック  | 4,485   | 5,242   |



水質調査の様子（滋賀事業所）

### ●放流水水質実測結果

#### ●滋賀事業所（水質汚濁防止法、県条例、日野町公害防止協定）

| 測定項目                    | 規制値     | 実績    |       |       |
|-------------------------|---------|-------|-------|-------|
|                         |         | 最大    | 最小    | 平均    |
| 排水量 (m <sup>3</sup> /日) | —       | 928.0 | 434.0 | 583.0 |
| PH                      | 6.0~8.5 | 7.7   | 7.2   | 7.4   |
| SS (mg/ℓ)               | 20以下    | 6.2   | 1.4   | 3.0   |
| COD (mg/ℓ)              | 20以下    | 6.5   | 2.5   | 4.1   |
| BOD (mg/ℓ)              | 20以下    | 4.0   | 2.0   | 2.1   |
| 全リン (mg/ℓ)              | 1以下     | 0.7   | 0.1   | 0.3   |
| 全窒素 (mg/ℓ)              | 10以下    | 7.4   | 0.5   | 3.2   |

※平均は加重平均値とする。

#### ●小牧事業所（下水道法、小牧市下水道局公害防止協定）

| 測定項目                    | 規制値     | 実績    |      |       |
|-------------------------|---------|-------|------|-------|
|                         |         | 最大    | 最小   | 平均    |
| 排水量 (m <sup>3</sup> /日) | —       | —     | —    | 103.0 |
| PH                      | 5.7~8.7 | 7.7   | 6.8  | 7.0   |
| BOD (mg/ℓ)              | 300未満   | 150.0 | 16.0 | 35.2  |
| SS (mg/ℓ)               | 300未満   | 62.0  | 6.0  | 17.7  |
| n-ヘキサン・鉱油 (mg/ℓ)        | 5以下     | 1.0   | 1.0  | 1.0   |
| n-ヘキサン・動植物油 (mg/ℓ)      | 30以下    | 17.0  | 1.0  | 3.3   |



排水処理場（滋賀事業所）

処理前(左)と処理後(右)の排水

### Column 騒音・振動対策

#### ■公害防止協定を順守、監視を実施

当社では、騒音・振動対策を継続して取り組むべき重要な課題としてとらえています。

公害防止協定に基づき、騒音の監視測定を実施し、協定順守に努めています。定期的な測定結果は、すべて協定値を下回りました。振動については、周辺地域への影響はありませんでした。

#### 騒音測定値

| 区分          | 騒音測定値 (dB) |             |              |              |
|-------------|------------|-------------|--------------|--------------|
|             | 朝<br>6時~8時 | 昼<br>8時~18時 | 夕<br>18時~22時 | 夜間<br>22時~6時 |
| 日野町協定値      | 60         | 65          | 60           | 55           |
| 測定値         | 42         | 46          | 55           | 53           |
| ●小牧事業所 (dB) |            |             |              |              |
| 区分          | 朝<br>6時~8時 | 昼<br>8時~18時 | 夕<br>18時~22時 | 夜間<br>22時~6時 |
| 小牧協定値       | 60         | 65          | 60           | 50           |
| 測定値         | 50         | 54          | 52           | 47           |



グリーン調達状況およびその推進方策

## グリーン調達

当社では、調達活動の改善も、環境配慮への重要な取り組みと考えています。顧客に、環境に配慮した製品を提供するため、取引先と一体となった環境管理体制を構築するとともに、社内においてはグリーン調達の推進に努めています。

### グリーン調達ガイドラインを発行

世界的に環境問題が大きく取り上げられ、人体や地球環境に影響を及ぼす有害物質の使用禁止や全廃を要請する声が強まっています。

たとえば、電気電子機器製品に含有される有害物質（鉛・水銀・カドミウム・六価クロム・PBB・PBDE）の使用を規制した「RoHS指令」（EU指令）など、海外の環境関連法規制が年々厳しくなっています。

これらの規制を受けて、国内の電気電子メーカーを中心にグリーン調達ガイドラインを設け、有害物質の製品への使用禁止を進めています。

当社でも、有害物質を含まないマテリアルハンドリングシステム・機器製品の提供を目指し、2004年7月から環境対応プロジェクトを発足させて取り組み、2005年11月には「グリーン調達ガイドライン」を発行しました。

2006年4月からは有害物質管理部会を発足させ、有害物質排除活動の仕組みづくりを進めています。



### エコ商品購入の推進

エコ商品購入の推進と、その活動を通じての社内外啓発活動に積極的に取り組んでいます。エコ商品については、グリーン購入ネットワークのデータベースや、環境ラベルの有無などを選定基準としています。

また、事務用品を購入する際にも、環境への負荷が少ない商品を選定しています。

### 優良サプライヤーを「S.Q.D賞」表彰

当社では、取引先にもグリーン調達への協力をお願いしています。

2003年度にサプライヤー評価システムを構築し、評価結果に基づき優良サプライヤーを表彰するための「S.Q.D賞」を設けました。4年目の2006年度は製作系取引先に工事・サービス系取引先を加えた243社を対象とし、S.Q.D賞8社を表彰しました。

当社製品の環境規制対応は、製作品の有害物質の調査および代替品の検討をしていきます。また、取引先に対して有害物質の調査をお願いし、含まない部品を購入していきます。



S.Q.D賞表彰式



受賞会社に贈られたトロフィー

### Comment 環境・安全活動担当者のコメント

#### 「グリーン調達」「環境対応に配慮した製品づくり」を推進

当社は、企業行動規範の基本方針で、「企業活動を通じて社会への貢献」を掲げております。この方針ののっとり、地球環境や人体に悪影響を及ぼす有害物質の排除に向けて、2004年度に環境対応プロジェクトを立ち上げ、「有害物質一覧表」および「グリーン調達ガイドライン」を制定し、広く対外的に「環境保全活動の取り組み姿勢」を示しました。2006年度には、専門部会を発足させ、この

活動を持続的かつ具体的に実施していくことにしました。初年度は、有害物質排除に関連した作業（表面処理、ハンダ作業など）の規格・標準書の策定をし、さらに本作業の工程認定要領・基準を定め、関連取引先の工程認定作業に着手しました。今後も引き続き、この活動を通じて、「グリーン調達」「環境対応に配慮した製品づくり」の推進を図ってまいります。



生産統括本部 副本部長  
有害物質管理部会 部長  
倉知 正明

世界最大規模のマテハン・ロジスティクス総合展示場

# 日に新たな館



「日に新たな館」外観



**施設概要**  
 建物面積：6,049m<sup>2</sup>  
 建物高さ：25.1m  
 延床面積：19,482m<sup>2</sup>  
 駐車場：バス5台、乗用車50台  
 開館時間：AM9:00～PM5:00（予約制）  
 休館日：日曜日、祝日  
 ホームページ：  
<http://www.daihoku.co.jp/hiniaratakan/>  
 フリーダイヤル：0120-074-854  
 運営会社：株式会社日に新たな館  
 〒529-1692  
 滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225  
 株式会社ダイフク 滋賀事業所内

ダイフクのマテリアルハンドリングシステム・機器をはじめ、ロジスティクス関連企業40社の150種類400点に及び機種を一堂に展示しています。館内では、自動車生産ラインや半導体・液晶生産ライン向けシステムのほか、保管から搬送、仕分け・ピッキングまで、最先端の実機や実演などがご覧いただけます。「日に新たな館」では、運用システムや物流設備をより深く理解いただくために、すべてのお客さまに専任スタッフによる引率案内を行っています。

1994年6月の開館以来、弊社のお客さまのほか、各種団体さまなど、年間平均2万人弱が来館、延べ20万人以上のお客さまをお迎えしています。



実際に操作を体験



英語・中国語による引率案内も可能



半導体・液晶生産ライン向けシステム



パレット自動倉庫「コンパクトシステム」



自動車生産ライン向けシステム